

平成19年度

掛之上遺跡58・60・62・64・65・67

— 写真図版編 —

2008

静岡県袋井市教育委員会
袋井市役所都市建設部区画整理課

平成 19 年度

掛之上遺跡58・60・62・64・65・67

－ 写真図版編 －

2008

静岡県袋井市教育委員会
袋井市役所都市建設部区画整理課

例 言

1. 本書は、平成19年度に袋井市教育委員会と袋井市役所都市建設部区画整理課が実施した、^{かけのうえ}掛之上遺跡の第58・60・62・64・65・67次発掘調査報告書写真図版編（交付金予算分報告書）である。ただし、第60次調査区では隣接した民地造成の調査区と一体化しているため本報告書で報告した。
2. 本発掘調査は袋井市教育委員会松井一明を発掘調査の担当者として実施した。
3. 本調査に係る事務については、袋井市役所都市建設部区画整理課公共施行係が行った。特に、公共施行係の久永豊彦、小池恵子、杉山資治、藤原資郎、大澤勇人、松井健尋の各氏には、現場と事務に関して円滑な調整をして頂いた。ここに記して感謝いたします。
4. 本書の編集は松井が行った。
5. 本書に使用した現場写真のうち、空中全景写真については株式会社フジヤマが撮影したものを、その他遺構個別写真については松井が撮影したものを使用した。
6. 本調査で得た資料については、すべて袋井市教育委員会が保管している。

写真図版目次

- 巻頭カラー図版1 (1) 第58次発掘調査区空中写真全景 (2) SH17
巻頭カラー図版2 (1) 第60次発掘調査区空中写真全景
(2) 第62次発掘調査区空中写真全景
巻頭カラー図版3 (1) 第64次発掘調査区空中写真全景
(2) 第65次発掘調査区空中写真全景
巻頭カラー図版4 (1) 第67次発掘調査区空中写真全景 (2) SH3
図版1 (1) 第58次発掘調査区空中写真遠景 (2) 第58次発掘調査区空中写真全景
図版2 (1) 第58次発掘調査区空中写真全景 (2) 第58次発掘調査区全景
図版3 (1) SB3 (2) SB7
図版4 (1) SB8 (2) SB8かまど
図版5 (1) SB8貯蔵穴内出土土器 (2) SB9
図版6 (1) SB9炉跡 (2) SH17
図版7 (1) SB17 (2) SB17SP6土層
図版8 (1) SB17SP6 (2) SB17SP7土層
図版9 (1) SB17SP7 (2) SZ7
図版10 (1) SZ7東溝土層 (2) SD34
図版11 (1) SD41 (2) SD41石垣
図版12 (1) SK57 (2) 重機による表土掘削作業風景
図版13 (1) 作業員による遺構調査作業風景 (2) ラジコンヘリによる写真撮影・測量作業風景
図版14 (1) 第60次発掘調査区空中写真全景 (2) 第60次発掘調査区空中写真全景
図版15 (1) 第60次発掘調査区空中写真全景 (2) 第60次発掘調査区全景
図版16 (1) SB38 (2) 調査区北端の竪穴住居群
図版17 (1) SB39 (2) SB39炉跡
図版18 (1) SB40 (2) SB41
図版19 (1) SB41炉跡 (2) SB42
図版20 (1) SB42 (2) SB42炉跡
図版21 (1) SD1・51・59・68 (2) SD1・51土層
図版22 (1) SD51出土瓦 (2) SK126
図版23 (1) SK128・129 (2) SK131・133
図版24 (1) SK137 (2) SK139・140
図版25 (1) 調査区北壁中央土層 (2) 重機による表土掘削作業風景
図版26 (1) 作業員による遺構調査作業風景 (2) ラジコンヘリによる写真撮影・測量作業風景
図版27 (1) 第60次発掘調査南区全景 (2) 第60次発掘調査南区全景
図版28 (1) SB37 (2) SB37炉跡
図版29 (1) SX11・SD61・62 (2) SX11
図版30 (1) 第62次発掘調査区空中写真遠景 (2) 第62次発掘調査区空中写真全景
図版31 (1) 第62次発掘調査区空中写真全景 (2) SB44
図版32 (1) SB44炉跡 (2) SB22
図版33 (1) SH5 (2) SH6・7空中写真
図版34 (1) SH5～7 (2) SH8
図版35 (1) SZ1空中写真 (2) SZ1北東コーナー部分
図版36 (1) SZ1東溝土層 (2) SK1
図版37 (1) SK143 (2) SK143・144
図版38 (1) SK146 (2) SK147

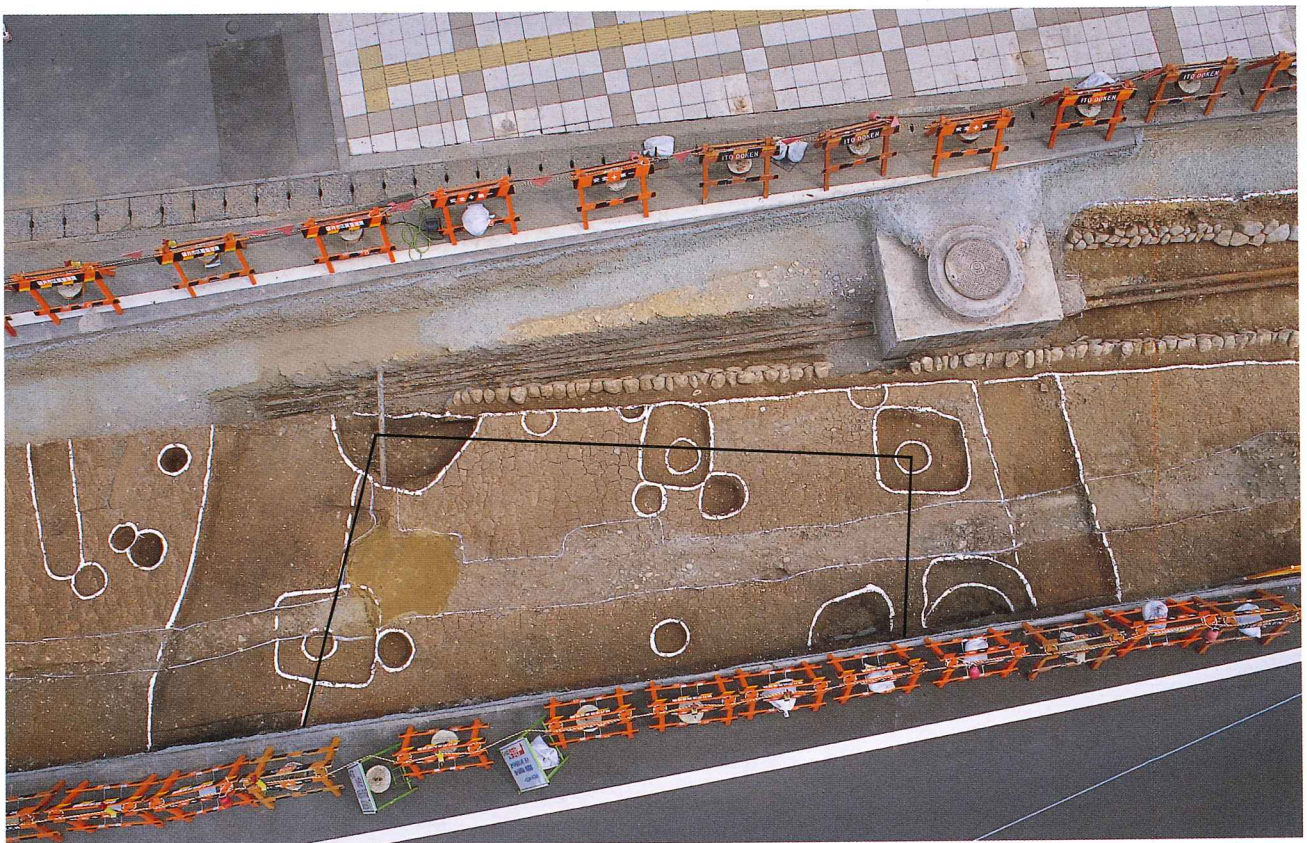
- 図版39 (1) S P 23 (2) S P 58
- 図版40 (1) 調査区北端自然谷 (2) 調査区北端自然谷土層
- 図版41 (1) 調査区西壁中央土層 (2) 重機による表土掘削作業風景
- 図版42 (1) 作業員による遺構調査作業風景 (2) ラジコンヘリによる写真撮影・測量作業風景
- 図版43 (1) 第64次発掘調査区空中写真全景 (2) 第64次発掘調査区空中写真全景
- 図版44 (1) 第64次発掘調査区西端空中写真 (2) S B 15
- 図版45 (1) S B 15焼土 (2) S B 15出土石器
- 図版46 (1) S B 45 (2) S B 45炉跡 1
- 図版47 (1) S B 46 (2) S B 47
- 図版48 (1) S H 10 (2) S D 2
- 図版49 (1) S D 2土層 (2) S D 81
- 図版50 (1) S D 84・85 (2) S K 50
- 図版51 (1) S K 151・154 (2) 調査区東壁北側土層
- 図版52 (1) 重機による表土掘削作業風景 (2) ラジコンヘリによる写真撮影・測量作業風景
- 図版53 (1) 第65次発掘調査区空中写真全景 (2) 第65次発掘調査区空中写真全景
- 図版54 (1) 第65次発掘調査区東端空中写真 (2) S B 6
- 図版55 (1) S B 6 炉跡 (2) S B 10
- 図版56 (1) S B 10かまど (2) S B 11
- 図版57 (1) S B 11炉跡 (2) S B 12
- 図版58 (1) S B 12焼土 (2) S B 12炉跡
- 図版59 (1) S B 12出土土器 (2) S B 13かまど
- 図版60 (1) S B 14 (2) S D 42
- 図版61 (1) S D 42土層 (2) S K 46
- 図版62 (1) S K 49 (2) 調査区南壁東側土層
- 図版63 (1) 作業員による遺構調査作業風景 (2) ラジコンヘリによる写真撮影・測量作業風景
- 図版64 (1) 第67次発掘調査区空中写真全景 (2) 第67次発掘調査区空中写真全景
- 図版65 (1) S B 32 (2) S B 32炉跡
- 図版66 (1) S B 48 (2) S B 48炉跡
- 図版67 (1) S K 162出土土器 (2) S B 49
- 図版68 (1) S B 68炉跡 (2) S B 50～52空中写真
- 図版69 (1) S B 50空中写真 (2) S B 50炉跡
- 図版70 (1) S B 51 (2) S B 51炉跡 1
- 図版71 (1) S B 51炉跡 2 (2) S B 52
- 図版72 (1) S B 53 (2) B 53炉跡
- 図版73 (1) S H 3空中写真 (2) S H 3
- 図版74 (1) S H 3 S P 10 (2) S H 3 S P 12
- 図版75 (1) S H 3 S P 13土層 (2) S K 156・163
- 図版76 (1) S D 86西端 (2) S D 86出土土器
- 図版77 (1) S K 158出土土器 (2) S Z 2 空中写真
- 図版78 (1) S Z 2 空中写真 (2) S Z 2 西溝土層
- 図版79 (1) S Z 2 東溝土層 (2) 包含層中出土土製品
- 図版80 (1) 調査区西壁中央土層 (2) 重機による表土掘削作業風景
- 図版81 (1) 作業員による遺構調査作業風景 (2) ラジコンヘリによる写真撮影・測量作業風景

※表紙写真 第67次調査区 S H 3 空中写真 (郡衙中枢部関連の土間式大型掘立柱建物と思われるが、正倉院区画溝外の建物である。西より)

写真図版



(1) 第58次発掘調査区空中写真全景
(手前に奈良時代の土間式大型掘立柱建物が見られる。東より)



(2) SH17
(奈良時代の土間式大型掘立柱建物で、郡衙正倉の関連建物と思われる。北側の梁行部分の検出となっている。南より)



(1) 第60次発掘調査区空中写真全景
(弥生後期の竪穴住居と、中世の区画溝が見つかった。西より)



(2) 第62次発掘調査区空中写真全景
(弥生後期の竪穴住居と方形周溝墓、近世の区画溝が見つかった。南より)



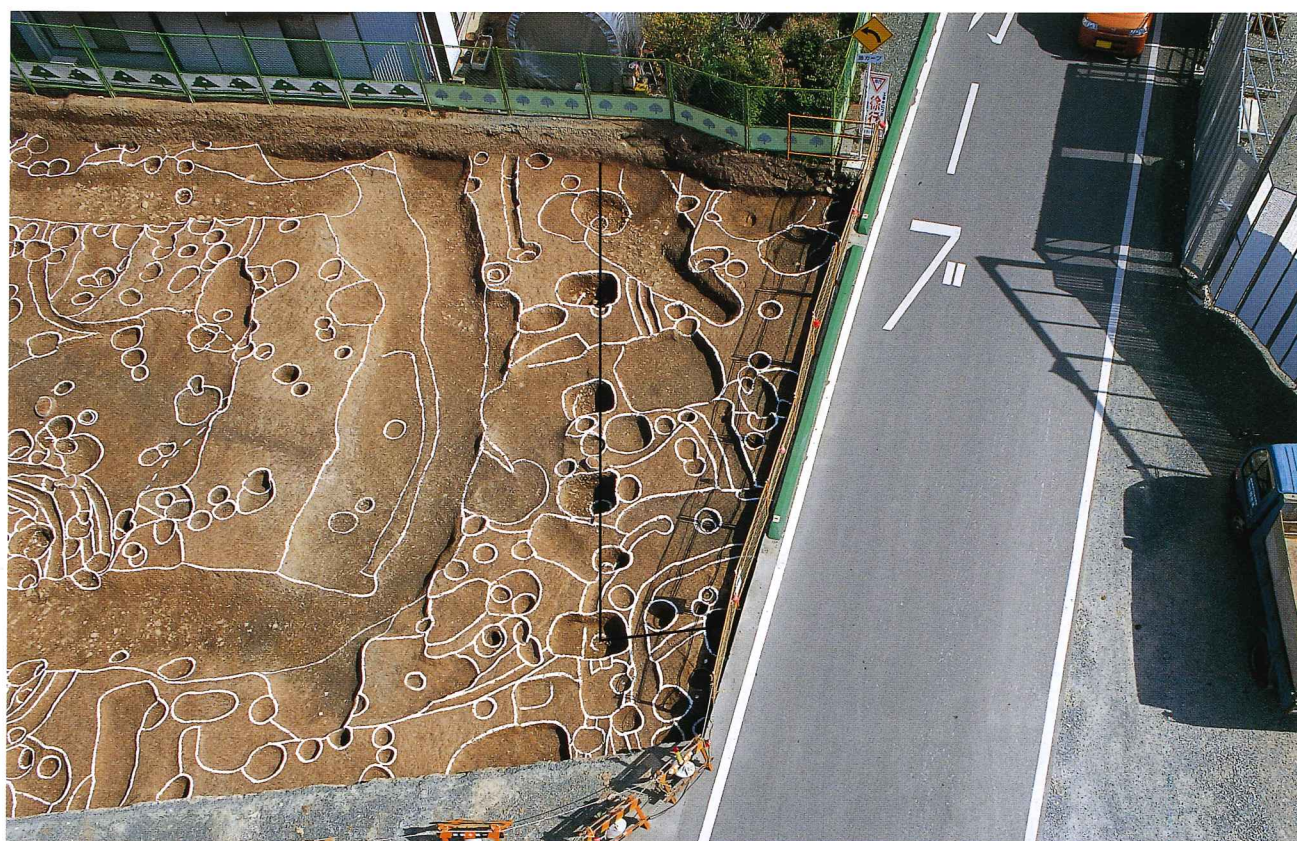
(1) 第64次発掘調査区空中写真全景
(弥生後期の竪穴住居と、中世～近世の区画溝が見つかった。南より)



(2) 第65次発掘調査区空中写真全景
(全面に弥生中～後期と古墳後期の竪穴住居や土坑、奈良時代の区画溝が見られる。南より)



(1) 第67次発掘調査区空中写真全景
(全面に弥生中～後期の竪穴住居や土坑のほか、奈良時代の土間式の大型掘立柱建物とその北側に弥生後期～古墳初頭の方形周溝墓が見られる。西より)



(2) SH3
(奈良時代の土間式の大型掘立柱建物で、郡衙中枢の関連建物と思われる。北半分の検出となっている。西より)



(1) 第58次発掘調査区空中写真遠景
(手前の住宅地が掛之上・大門遺跡が立地する段丘である。右側上端は小笠山で一番手前の丘陵地には地藏ヶ谷横穴・古墳群が存在する。西より)



(2) 第58次発掘調査区空中写真全景
(奥の方に奈良時代の土間式の大型掘立柱建物が、手前には弥生後期と古墳後期の竪穴住居が見られる。西より)



(1) 第58次発掘調査区空中写真全景
(右手は奈良時代の掘立柱建物しかなく、古墳後期以前は窪地になっていたようである。南より)



(2) 第58次発掘調査区全景
(手前の石垣をもつ溝は近代の屋敷地の南側を区画する溝である。東より)



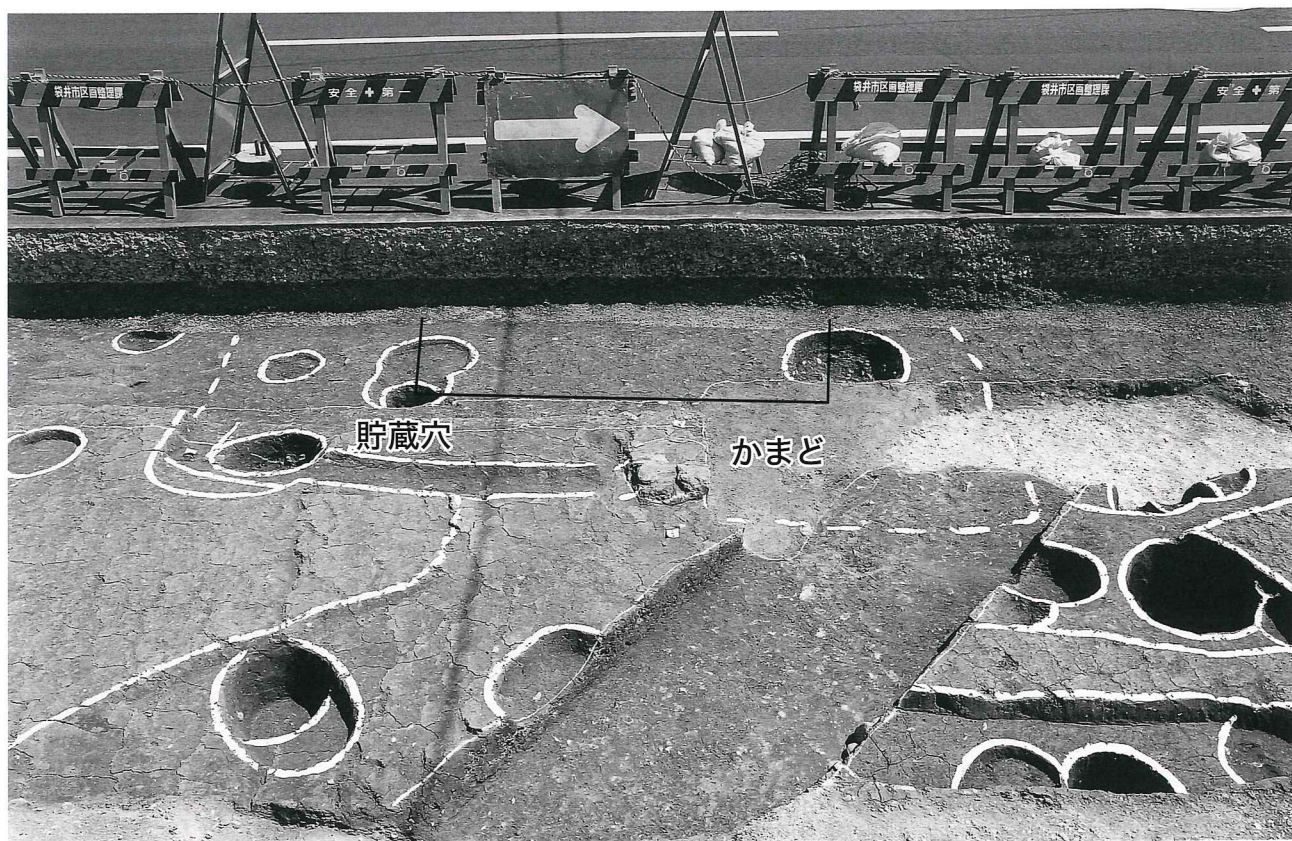
(1) SB 3

(古墳後期の竪穴住居と思われるが、壁溝の一部の検出で形態は分からない。北東より)



(2) SB 7

(弥生後期の竪穴住居と見られるが、柱穴のみの確認にとどまった。北より)



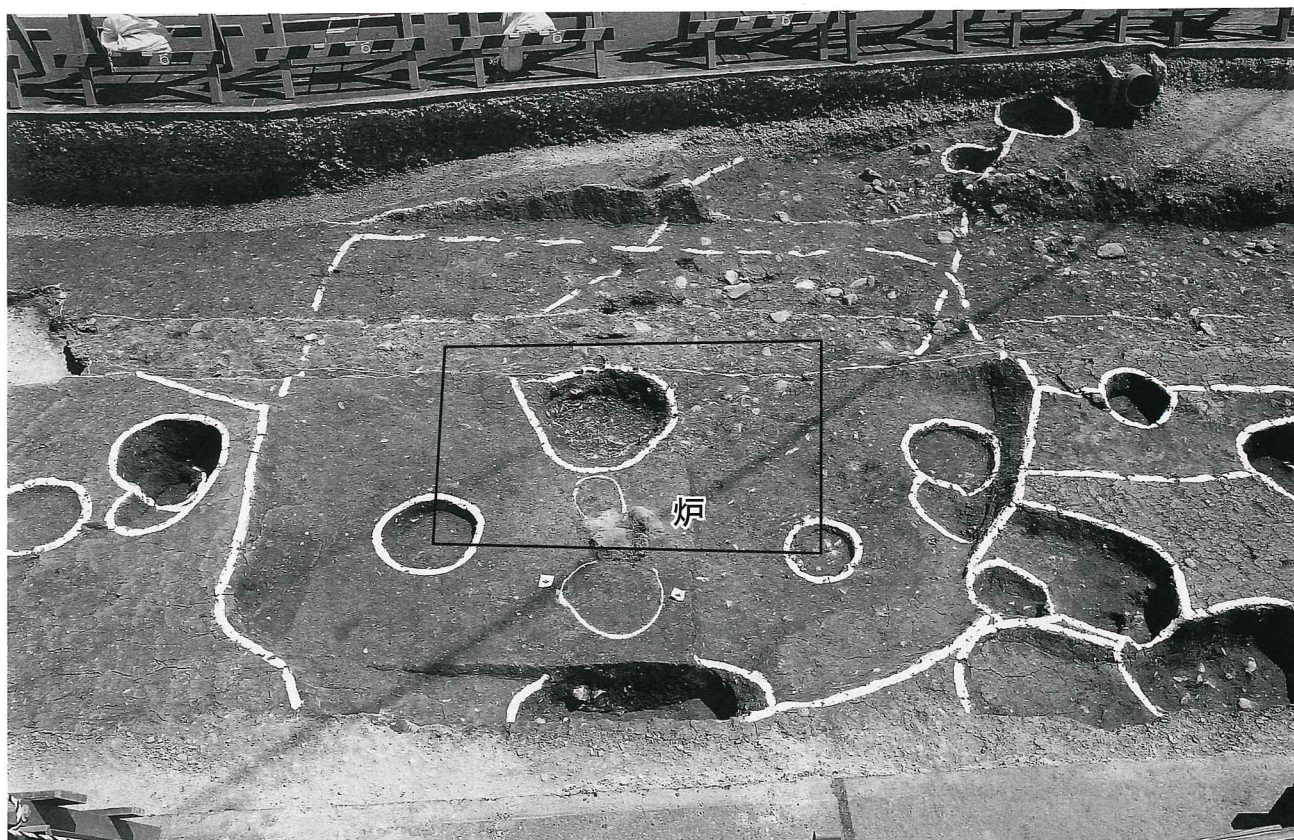
(1) S B 8 (古墳後期の竪穴住居で、北壁にかまどが見られる。北より)



(2) S B 8 かまど (基底部のみの検出で残存状況はよくない。南より)



(1) S B 8 貯蔵穴内出土土器
(北東隅で検出できた貯蔵穴内より小型甕が出土した。南より)

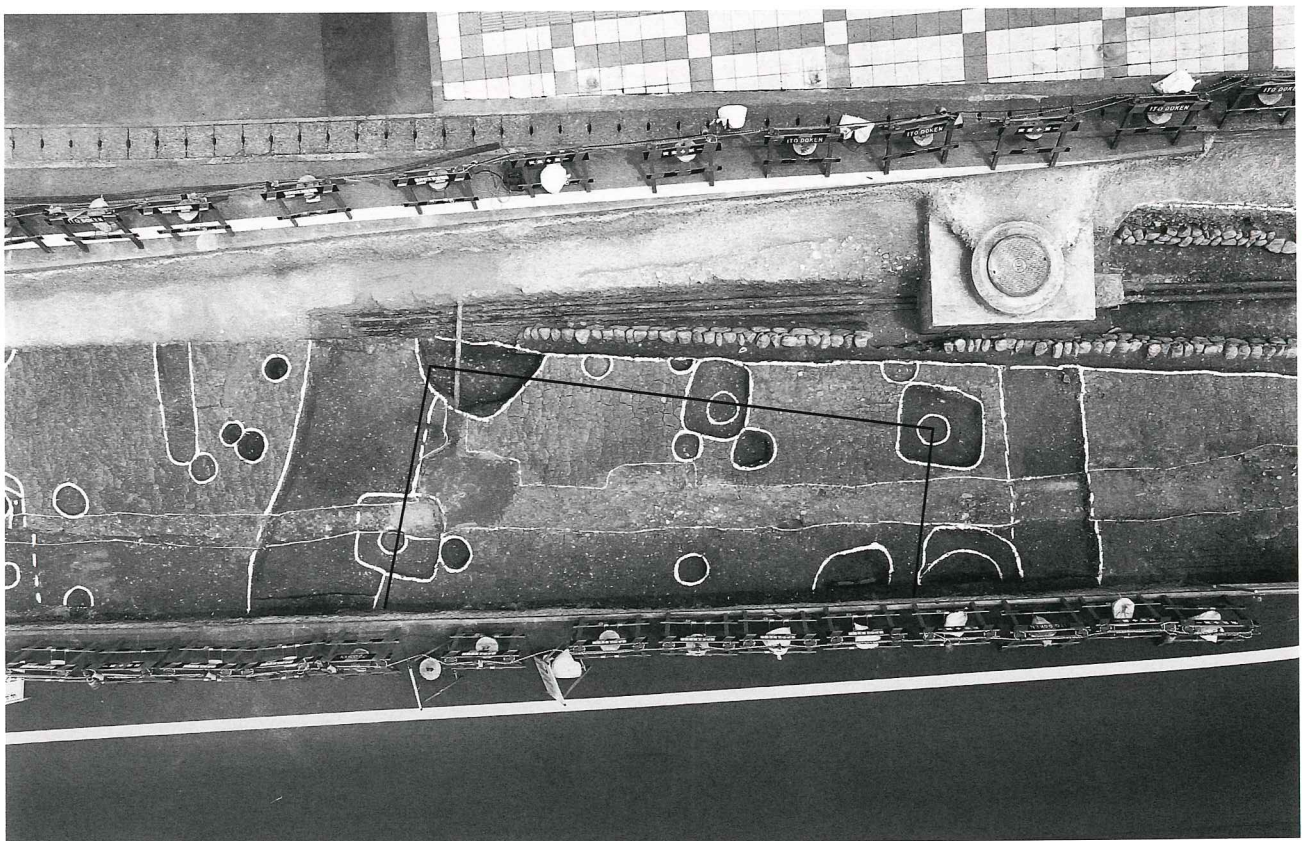


(2) S B 9
(弥生後期の隅丸方形の竪穴住居である。北側によった部分に炉跡が見られる。北より)



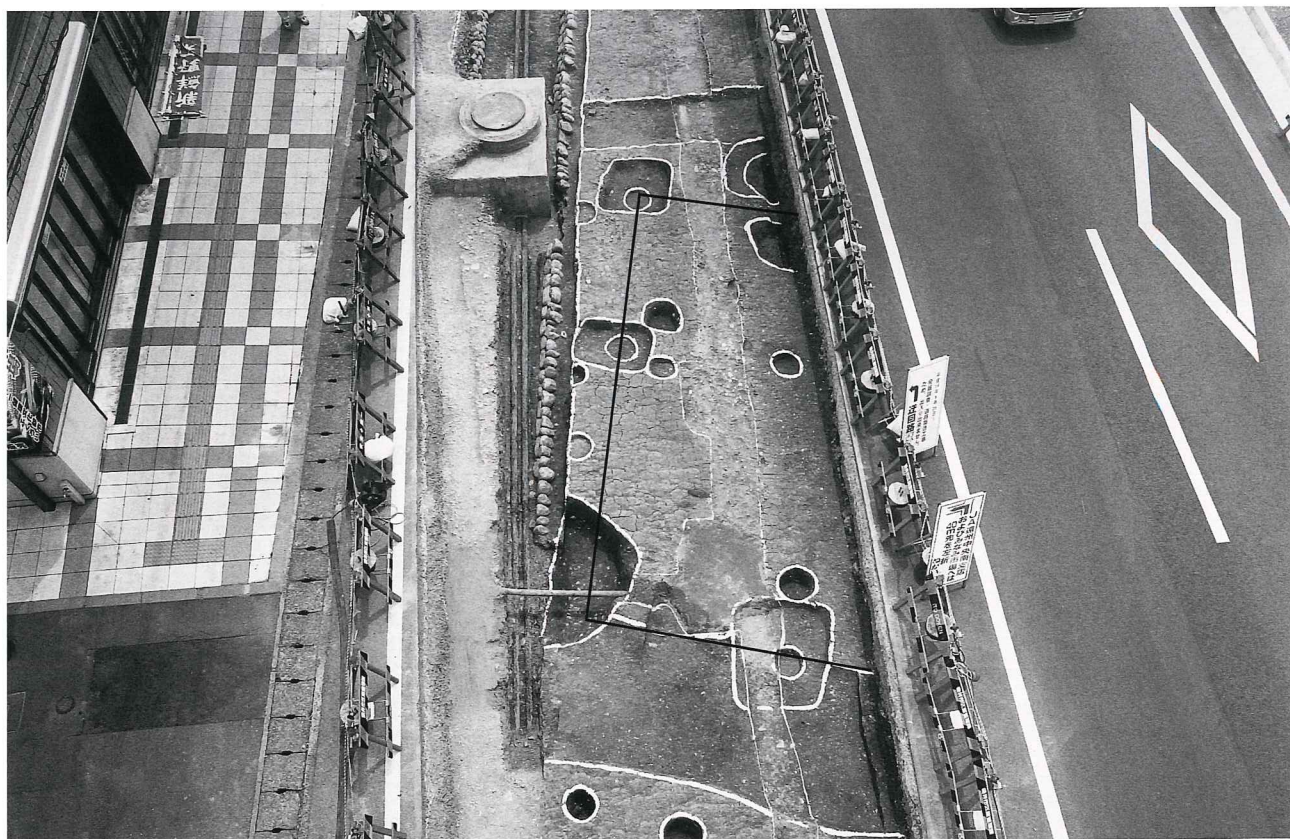
(1) SB9 炉跡

(地床炉でありよく焼けていない。石が配置されているが炉に伴うものではない。南より)



(2) SH17

(奈良時代の土間式の大型掘立柱建物で、北端の梁行きの柱列を検出した。上が北で、真上より)

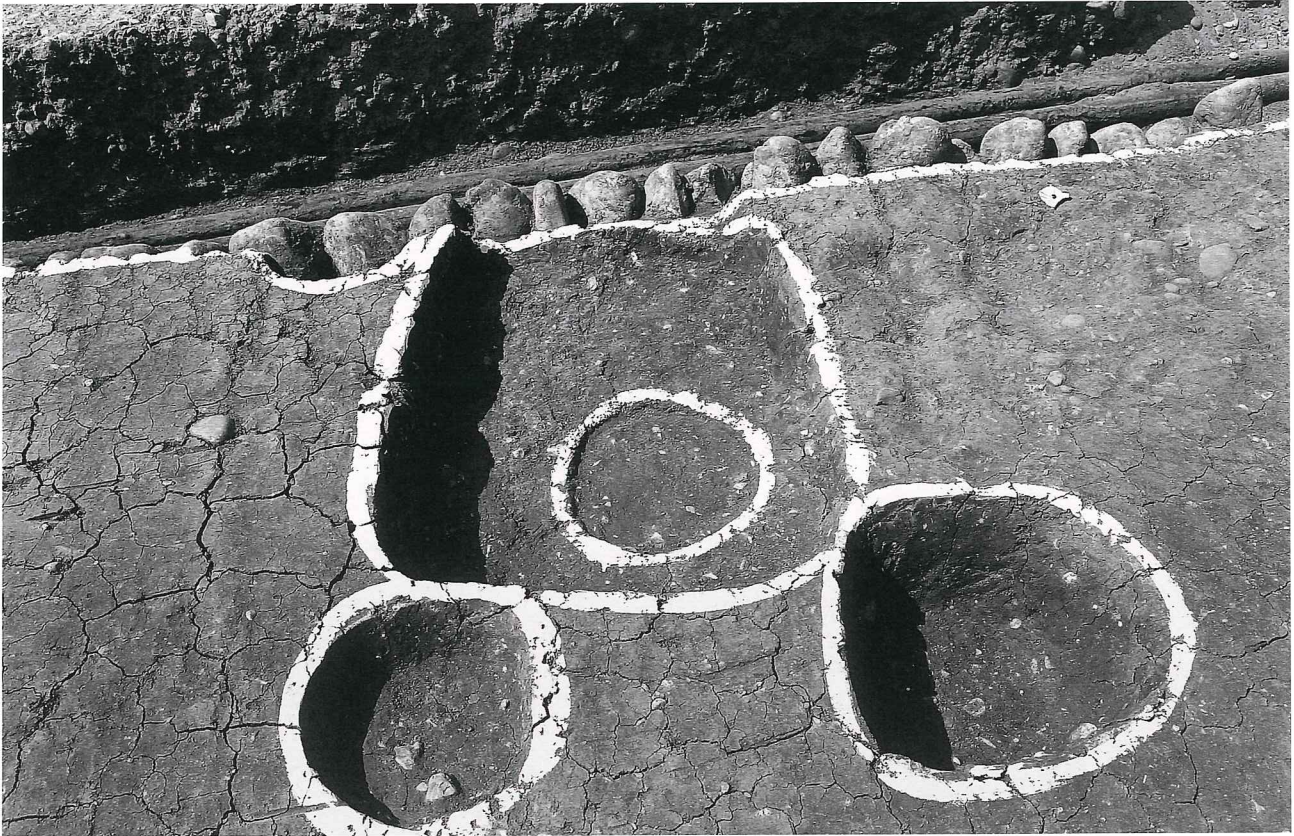


(1) SB17

(総柱建物ではないが、検出場所から見て郡衙正倉関連の土間式倉庫と見られる。西より)



(2) SB17 SP 6 土層 (柱痕跡は土層では確認できなかった。南より)



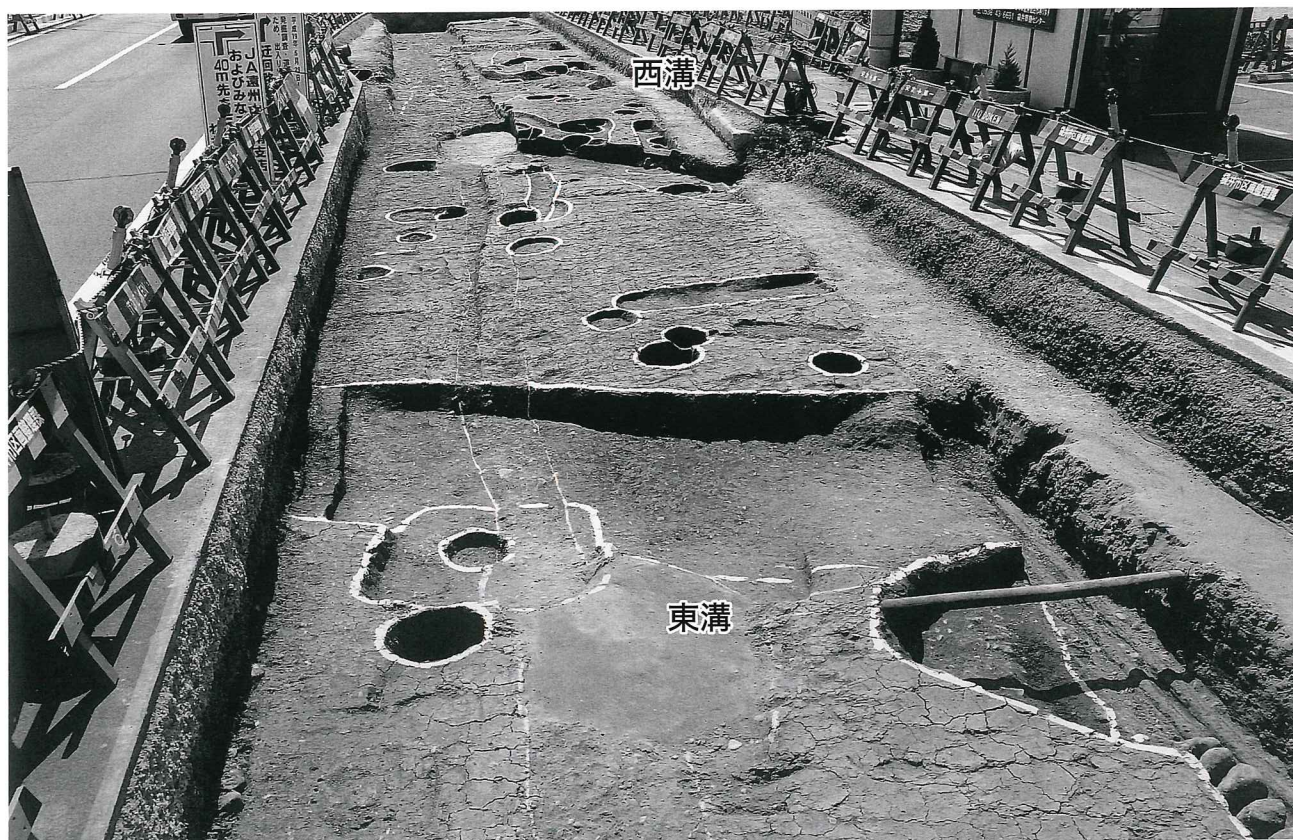
(1) S B17 S P 6 (柱痕跡は底に直径40cmの痕跡が確認できた。南より)



(2) S B17 S P 7 土層 (柱痕跡は土層で直径40cmの痕跡が確認できた。南より)



(1) S B17 S P 7 (柱痕跡は底で直径40cmの痕跡が確認できた。南より)



(2) S Z 7

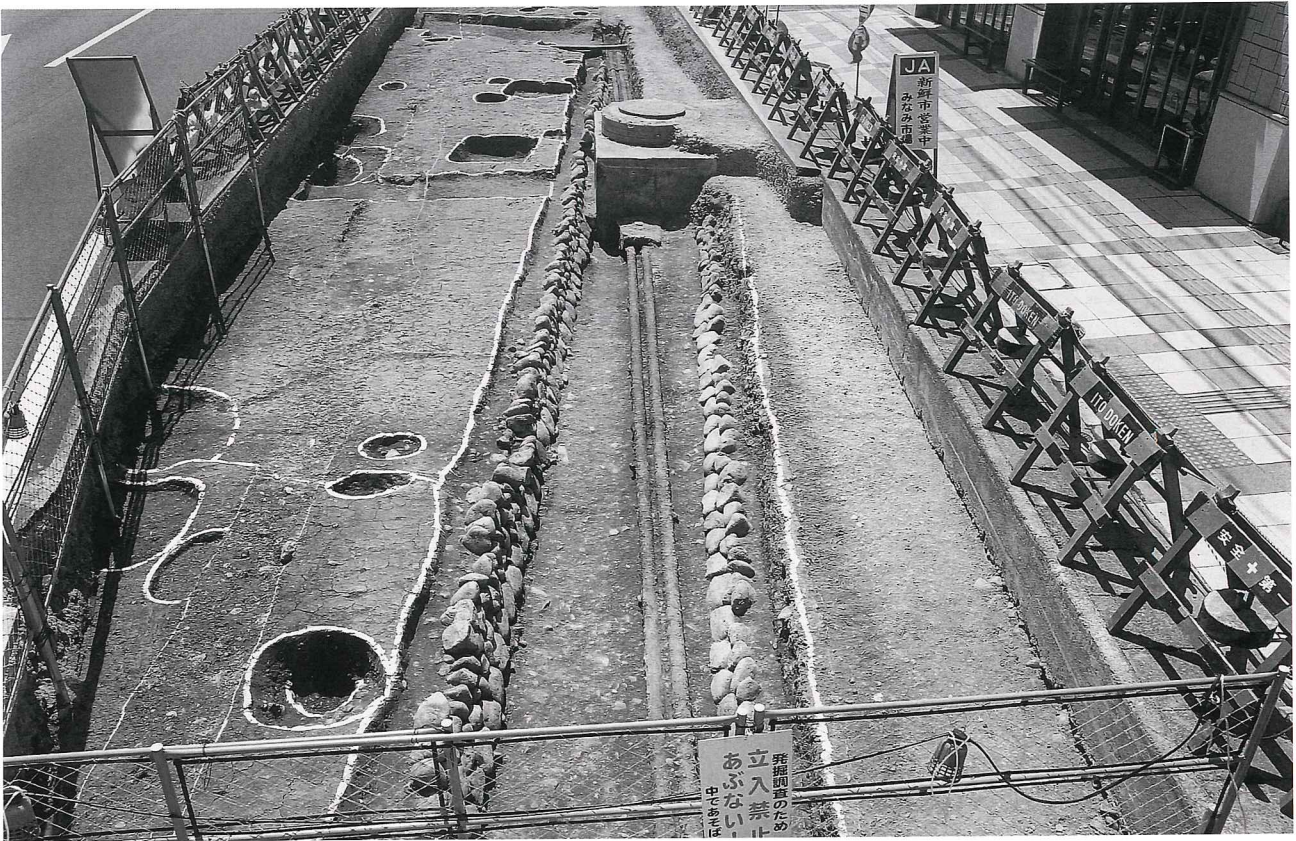
(弥生中期の四隅に陸橋をもつ形態の方形周溝墓である。西溝と東溝が検出された。東より)



(1) S Z 7 東溝土層（土層からは盛土の流入は確認できなかった。南より）



(2) S D34（弥生後期の溝である。集落内部の区画溝と思われる。北より）



(1) S D41 (近代の屋敷地の南側の区画溝で、石垣が積まれている。東より)

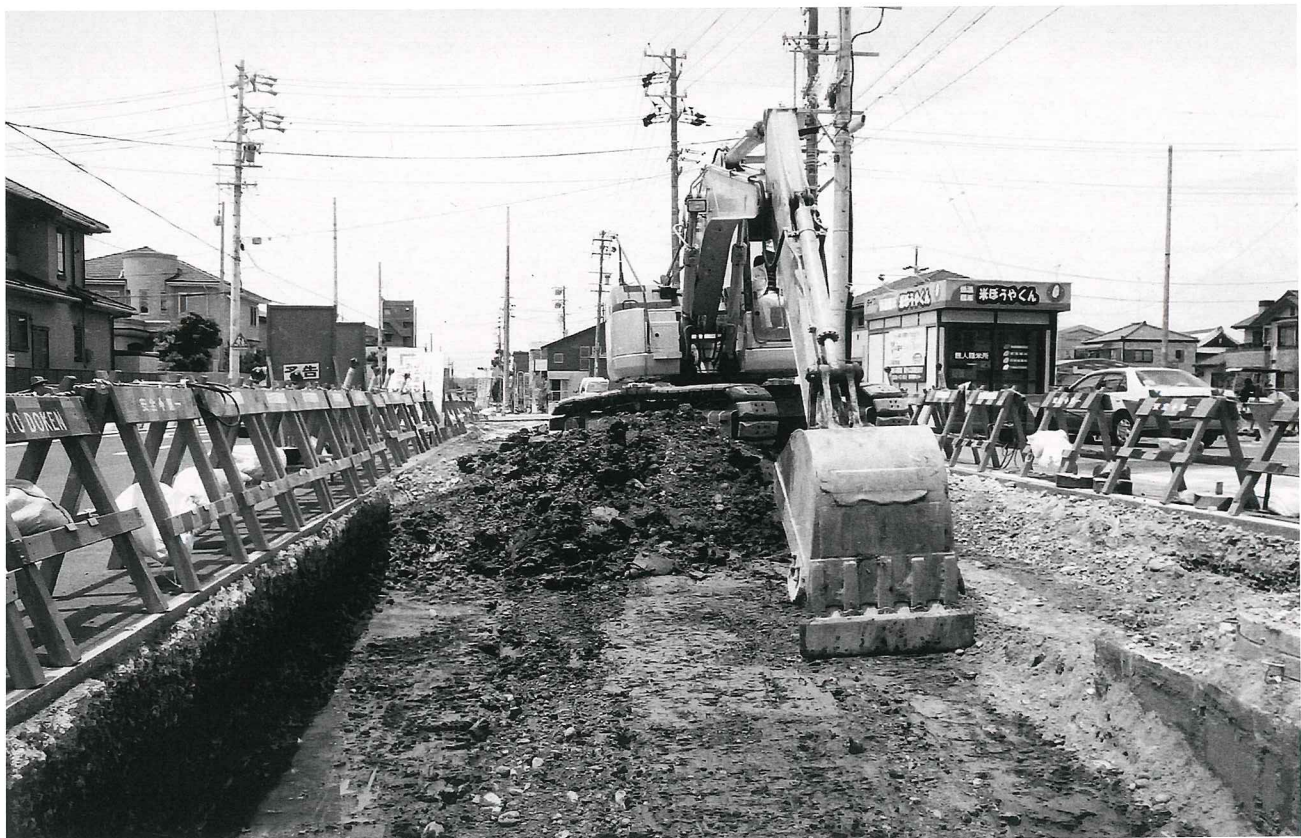


(2) S D41石垣

(円礫を使用しており、一段ずつ積んだ状況がよく分かる。
基底部はやや少し大きめの石を配置している。北より)



(1) S K57 (鎌倉時代の円形土坑である。北側はS D41と攪乱で壊されている。南より)



(2) 重機による表土掘削作業風景
(現道下であったため包含層は削平されており、遺構確認面まで表土が除去できた。)



(1) 作業員による遺構調査作業風景（調査区西側部分を調査している。）



(2) ラジコンヘリによる写真撮影・測量作業風景



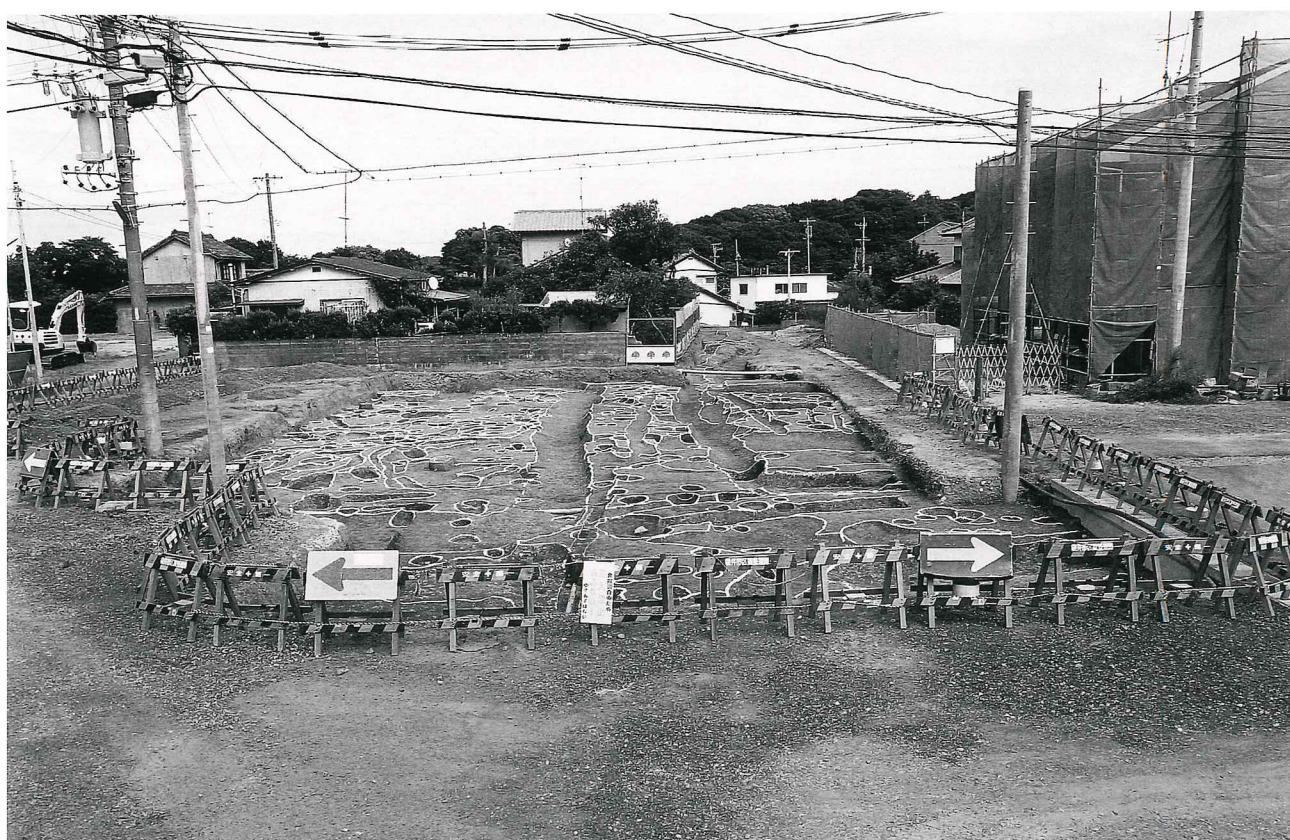
(1) 第60次発掘調査区空中写真全景
(全面に弥生中～後期の竪穴住居や柱穴や土坑が見られる。上が北で、真上より)



(2) 第60次発掘調査区空中写真全景
(溝は中世の屋敷地を区画する溝と思われる。東より)



(1) 第60次発掘調査区空中写真全景
(全面に弥生中～後期の竪穴住居や柱穴や土坑が見られる。上が北で、真上より)



(2) 第60次発掘調査区全景 (溝は中世の屋敷地を区画する溝と思われる。西より)



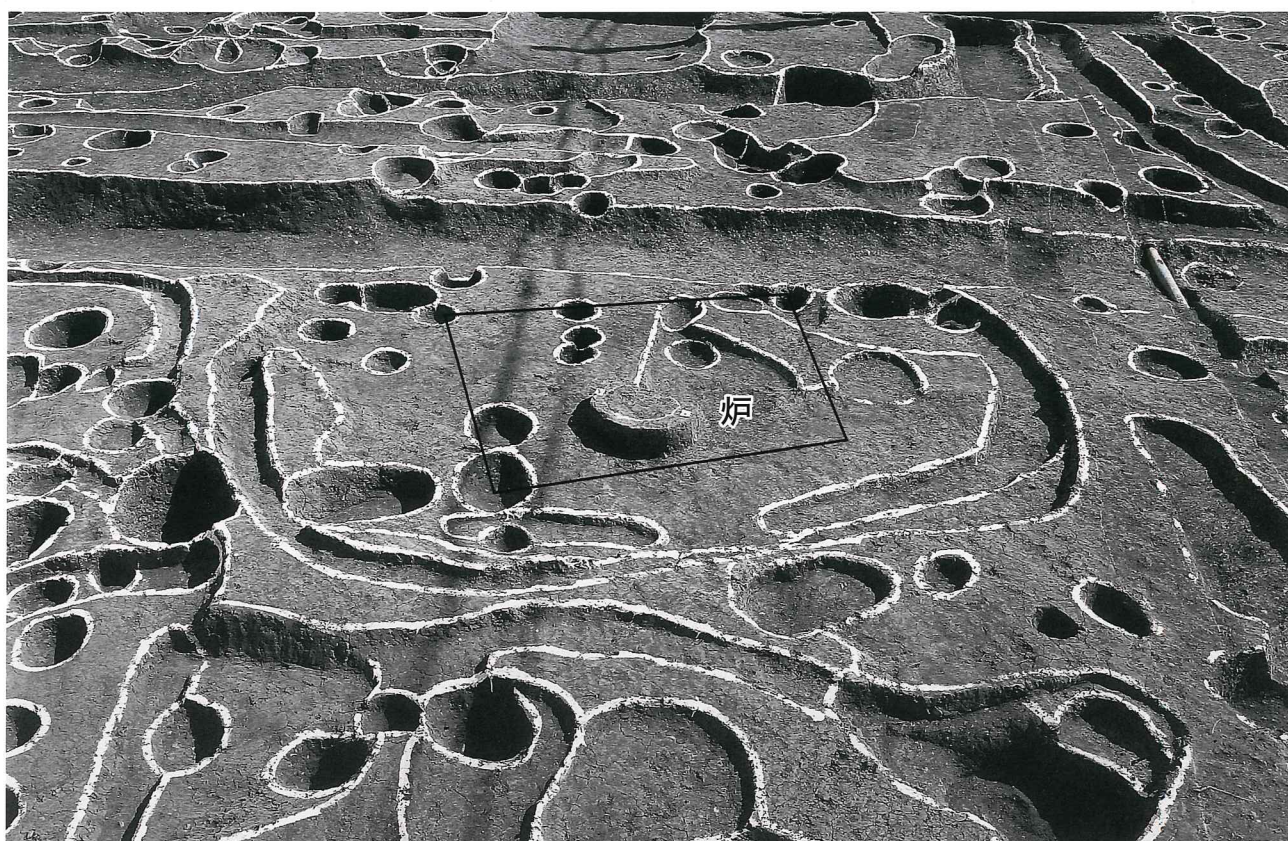
(1) SB38

(弥生後期の隅丸方形の竪穴住居と思われるが、中世の遺構により壊されているため全体の形態は分からない。北より)



(2) 調査区北端の竪穴住居群

(何れも弥生後期の竪穴住居と見られるが、遺存状況はよくない。西より)



(1) S B39

(弥生後期の楕円形の竪穴住居で、北側によった部分に炉跡が見られる。北より)



(2) S B39炉跡 (よく焼けている円形の地床炉である。北より)



(1) S B40

(弥生後期の竪穴住居と思われるが、一部の検出で形態はよく分からない。南より)



(2) S B41

(弥生後期の隅丸方形の竪穴住居と思われるが、一部の検出で確実な形態は分からない。南より)



(1) S B41炉跡 (あまりよく焼けていない地床炉である。西より)



(2) S B42

(弥生後期の竪穴住居と思われるが、壁溝が一部の検出であったため形態はよく分からない。
壁溝の数から見ると最低2回の建替があったようである。南より)

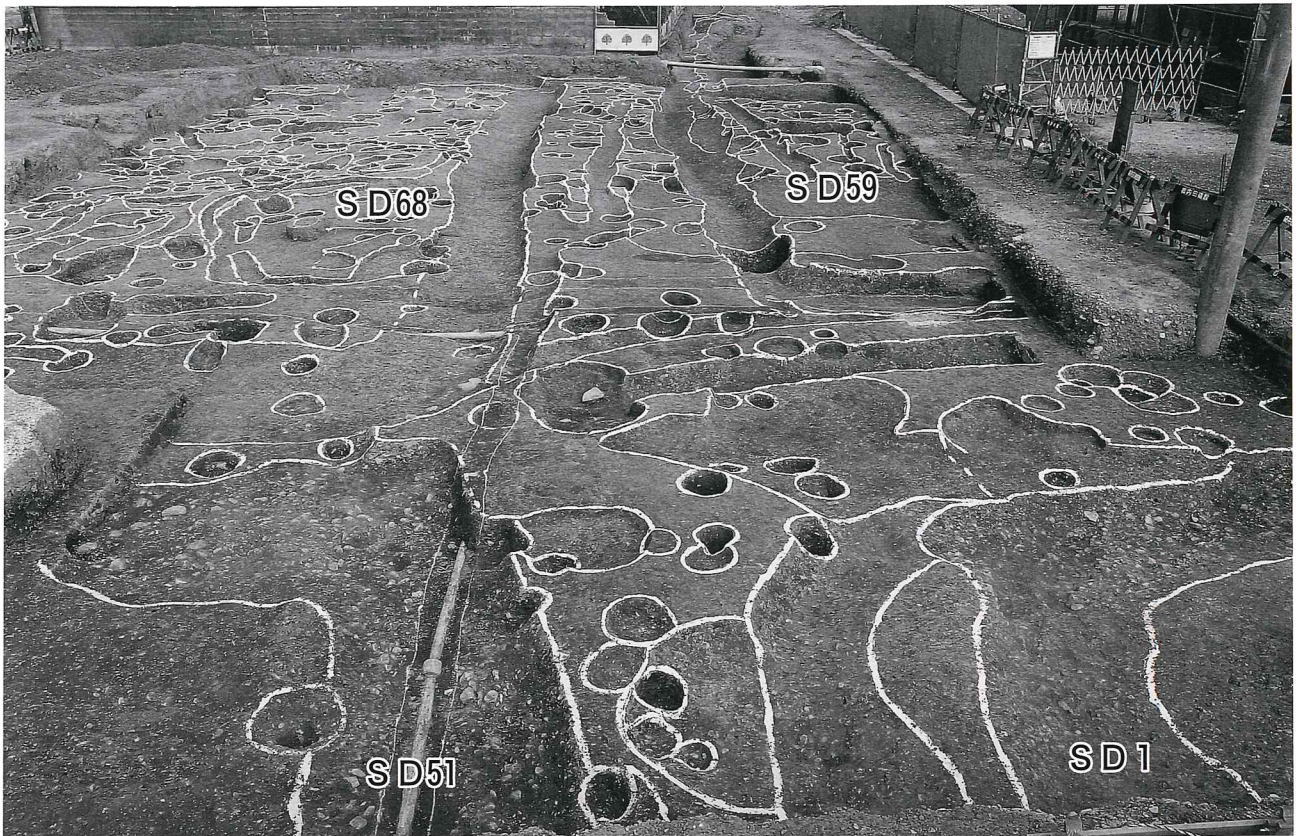


(1) S B42

(弥生後期の竪穴住居と思われるが、中世の遺構等で壊され
形態はよく分からない。炉跡と柱穴は検出された。南より)



(2) S B42炉跡 (よく焼けている地床炉で2箇所認められた。西より)



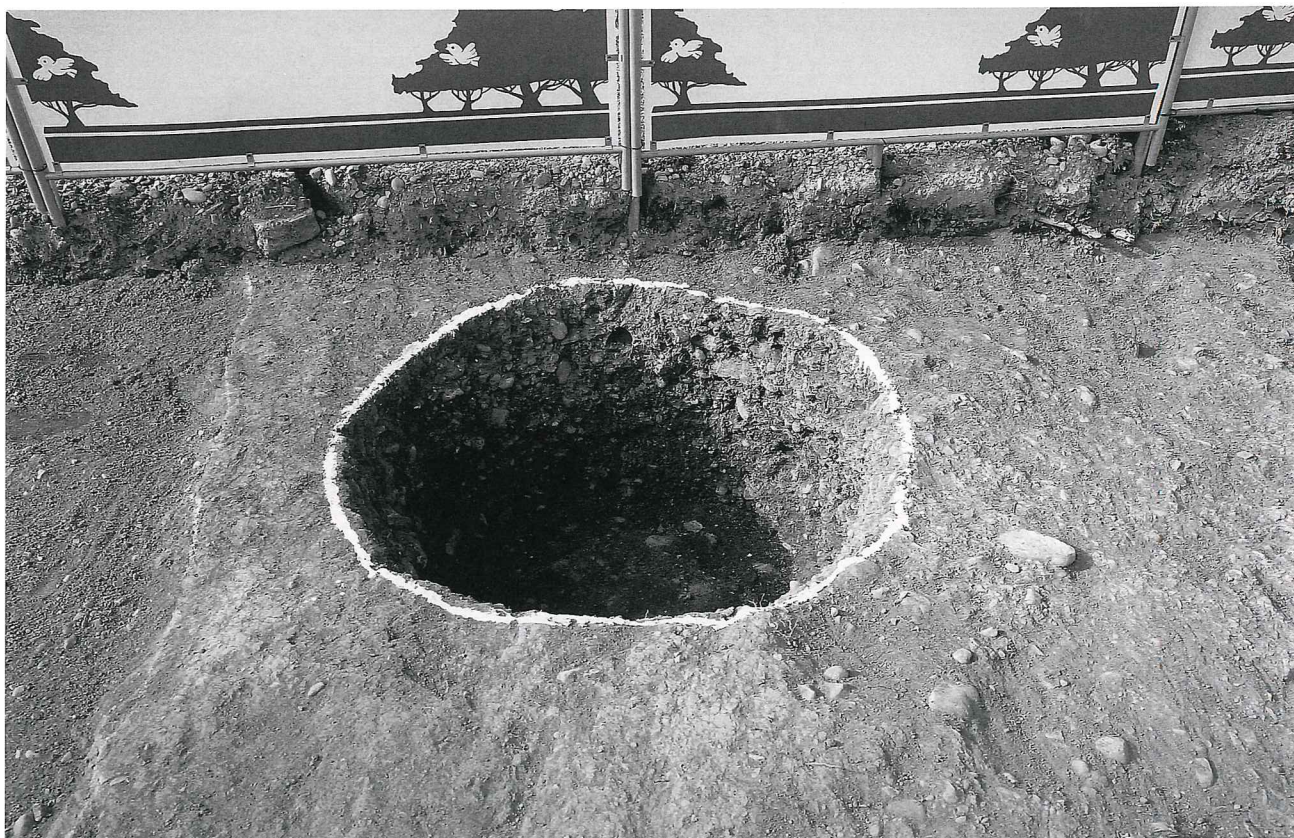
(1) SD 1・51・59・68
(中世の屋敷地の区画溝と思われ、溝の間は通路として利用されていたのであろう。西より)



(2) SD 1・51土層 (土層からは自然堆積を示している。東より)



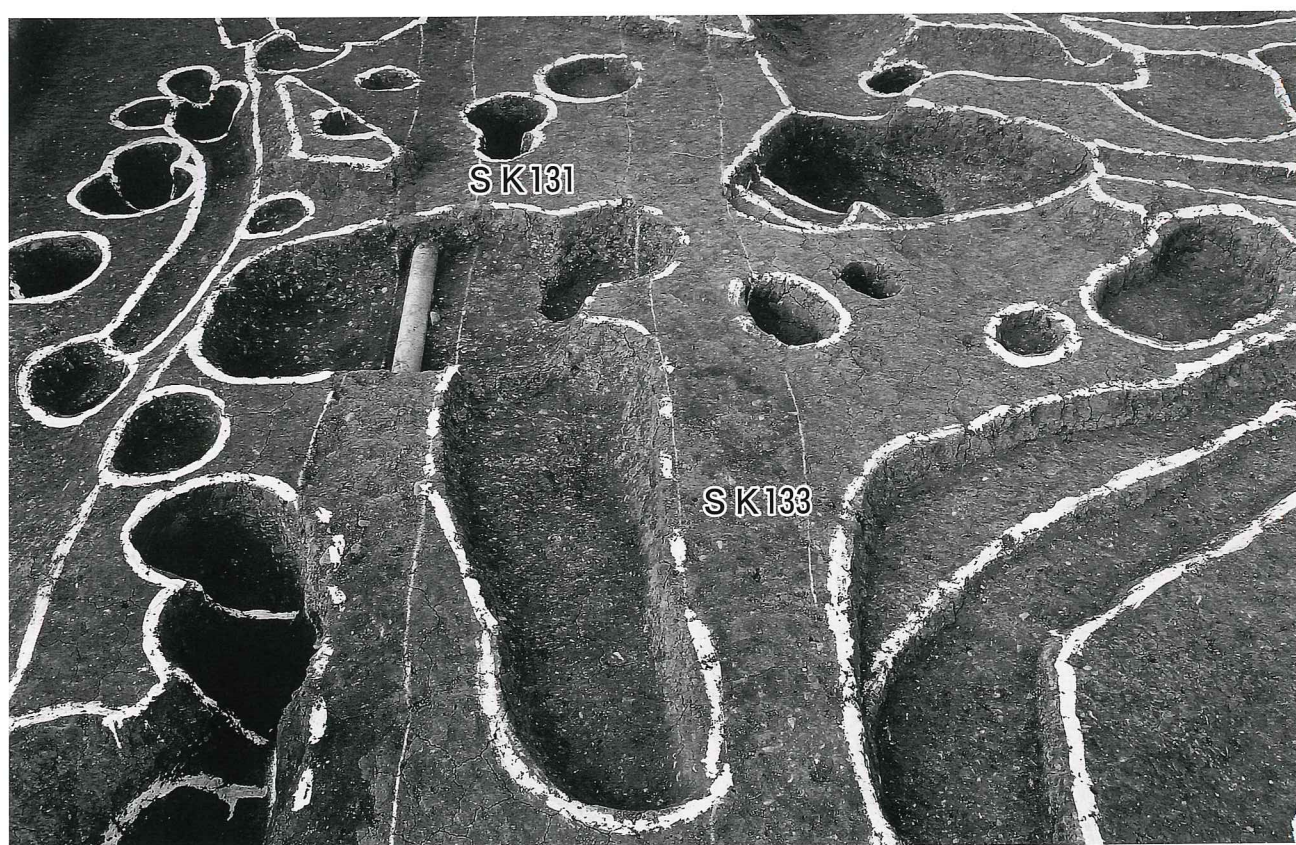
(1) S D51出土瓦（古代の軒平瓦が混入して出土した。北より）



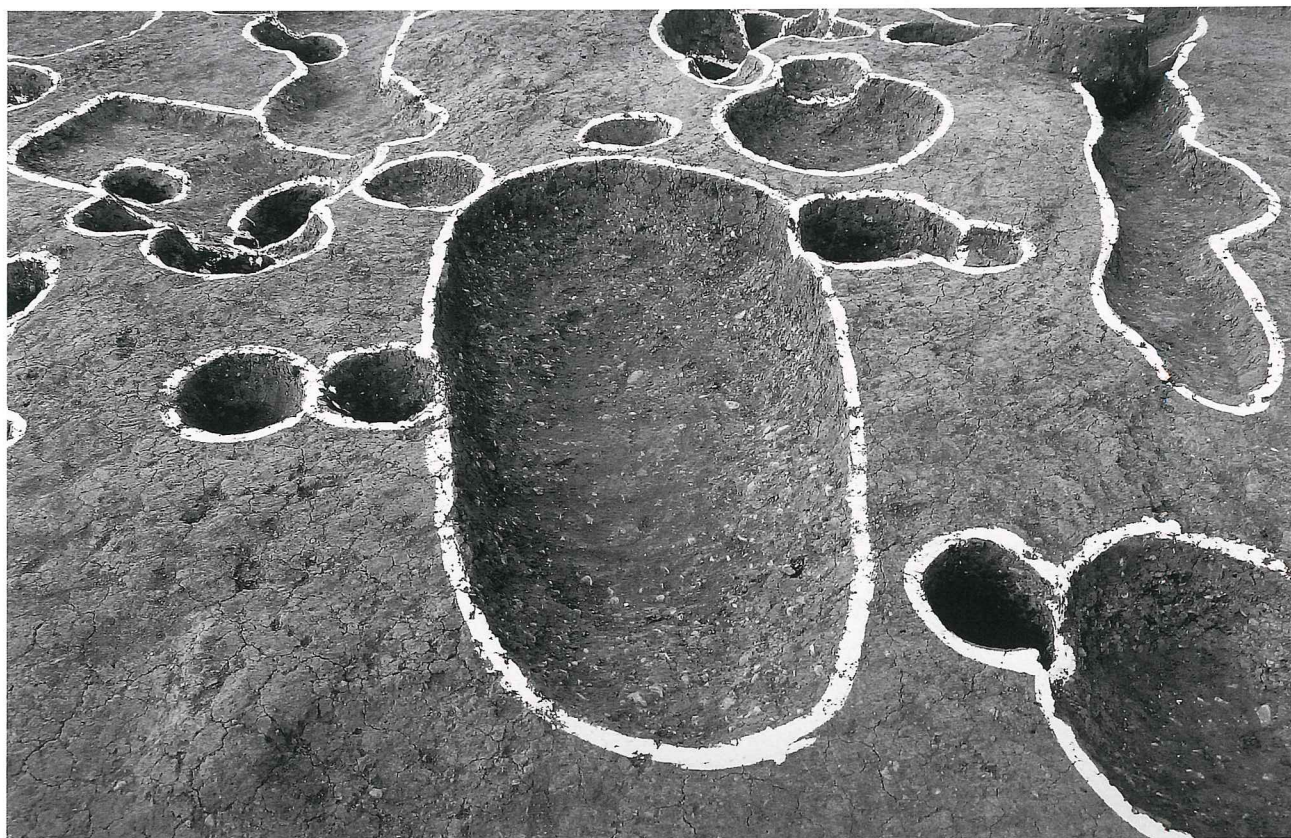
(2) S K126（近世の円形土坑で、水溜用と思われる。南より）



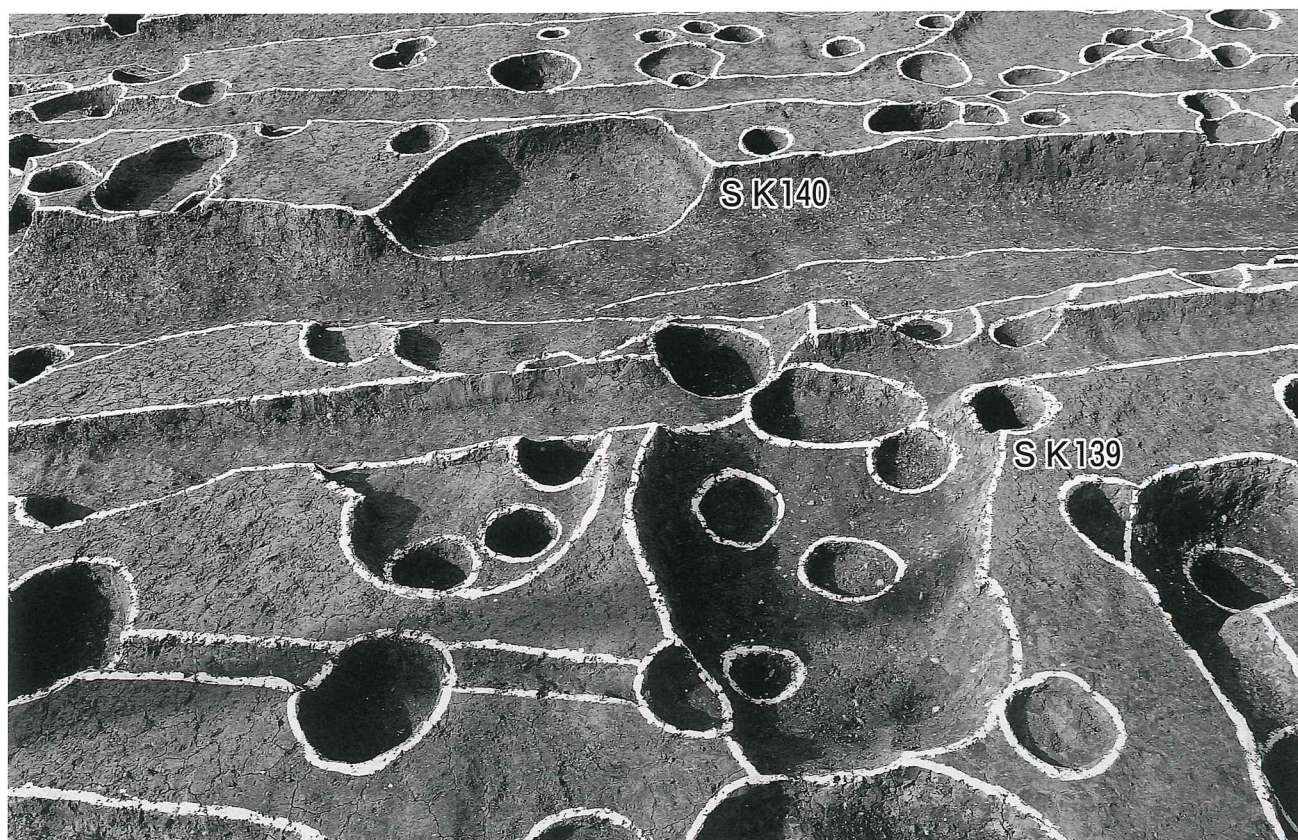
(1) SK128・129
 (弥生後期の不定形の土坑で、土器片が出土した。弥生後期の土坑はいずれも竪穴住居の付近に見られる。南より)



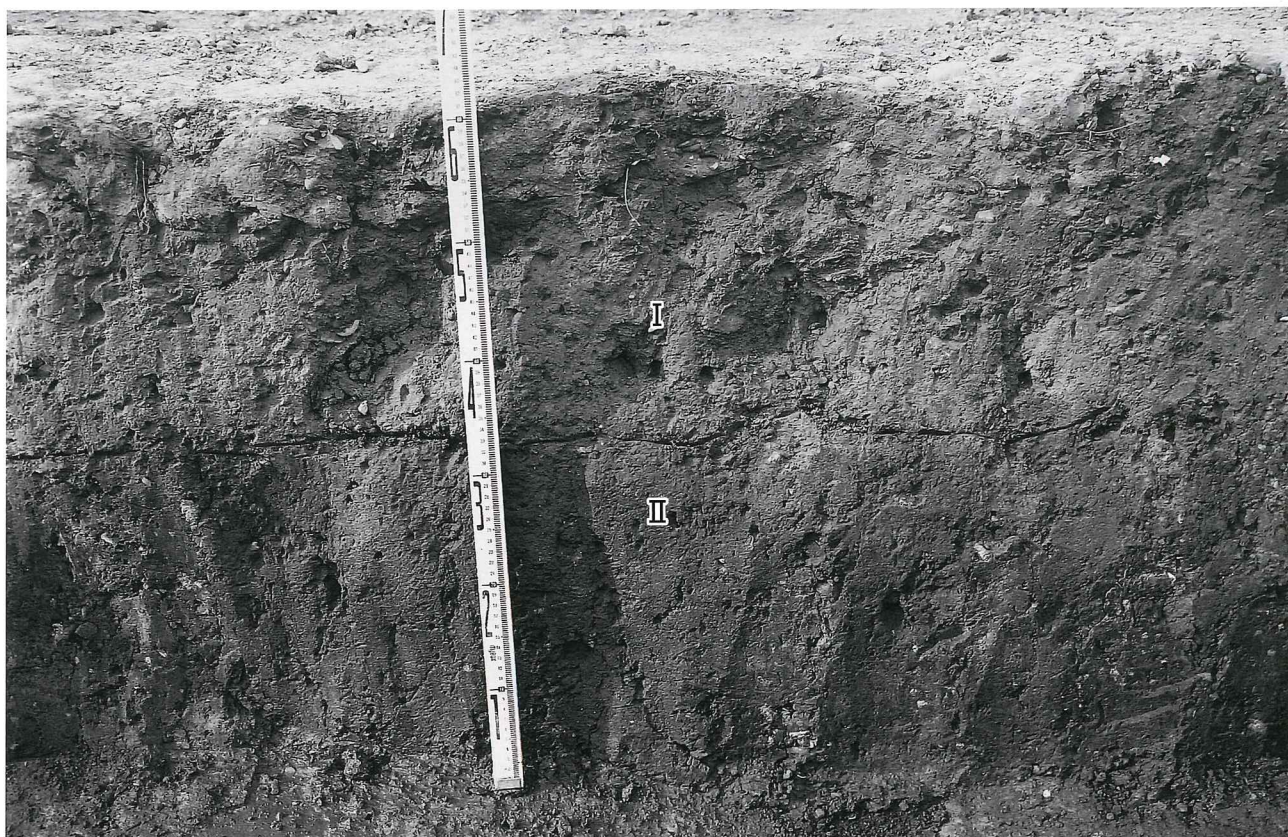
(2) SK131・133 (弥生後期の不定形の土坑で、土器片が出土した。南より)



(1) S K137 (弥生後期の楕円形の土坑で、竪穴住居と重複して発見された。南より)



(2) S K139・140 (弥生後期の不定形の土坑で、土器片が出土した。南より)



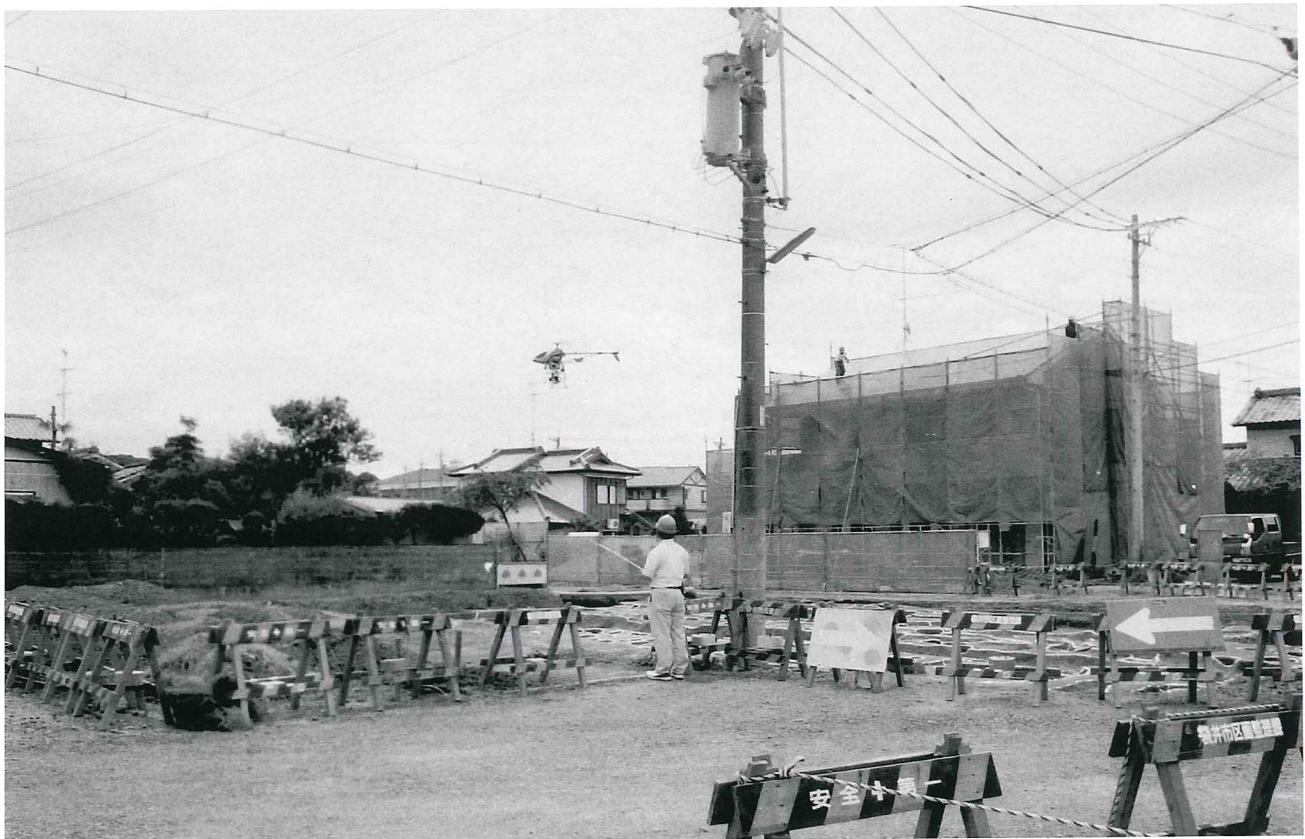
(1) 調査区北壁中央土層（厚さ35cmの包含層が調査区全面に見られた。南より）



(2) 重機による表土掘削作業風景
(良好な包含層が存在していたため、包含層上面までの表土を除去した。)



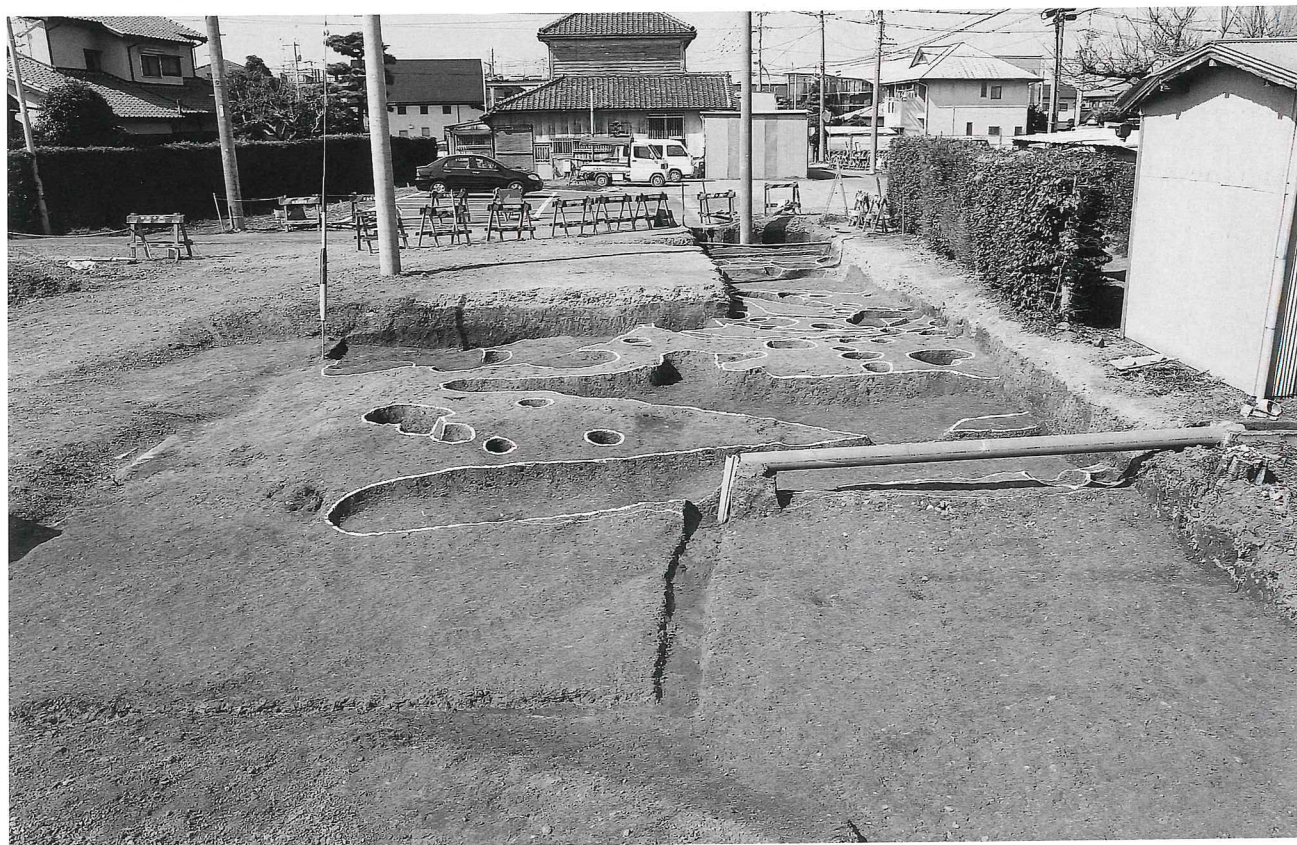
(1) 作業員による遺構調査作業風景（調査区北端の竪穴住居の調査を進めている。）



(2) ラジコンヘリによる写真撮影・測量作業風景



(1) 第60次発掘調査南区全景
(手前には弥生中～後期の竪穴住居や柱穴や土坑が見られるが、
上端は昔の宅地造成で削平されている。西より)



(2) 第60次発掘調査南区全景 (西端の遺構残存部分で、手前は削平されている。東より)



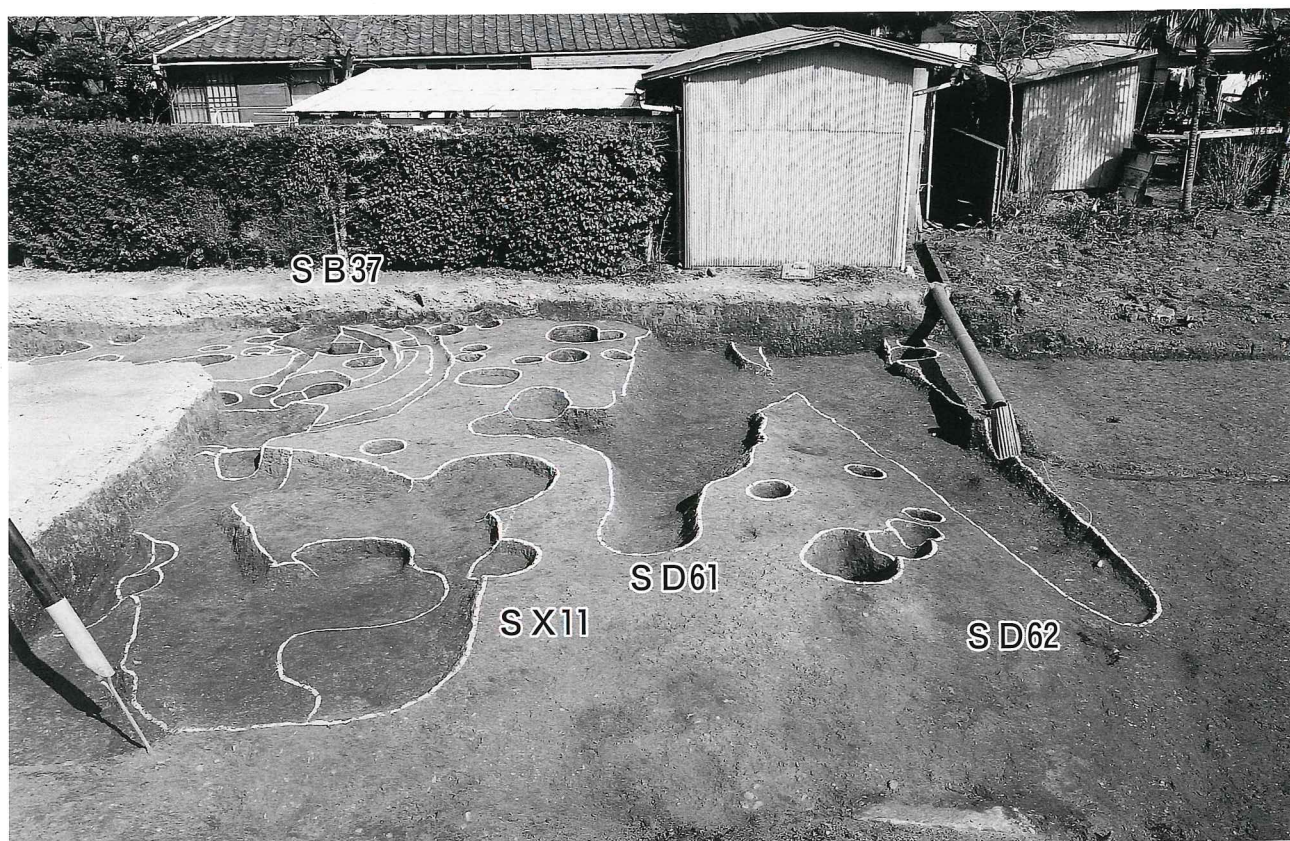
(1) S B37

(弥生後期の楕円形の竪穴住居で、壁溝から見て最低4回の建替があったと思われる。東より)



(2) S B37炉跡

(よく焼けている地床炉であるが、土坑により一部壊されている。南西より)



(1) SX11・SD61・62
 (いずれも弥生後期の遺構で、溝は住居周辺の排水用であるかもしれない。南より)



(2) SX11
 (弥生後期の隅丸方形の竪穴状遺構で、竪穴住居になる可能性がある。東より)



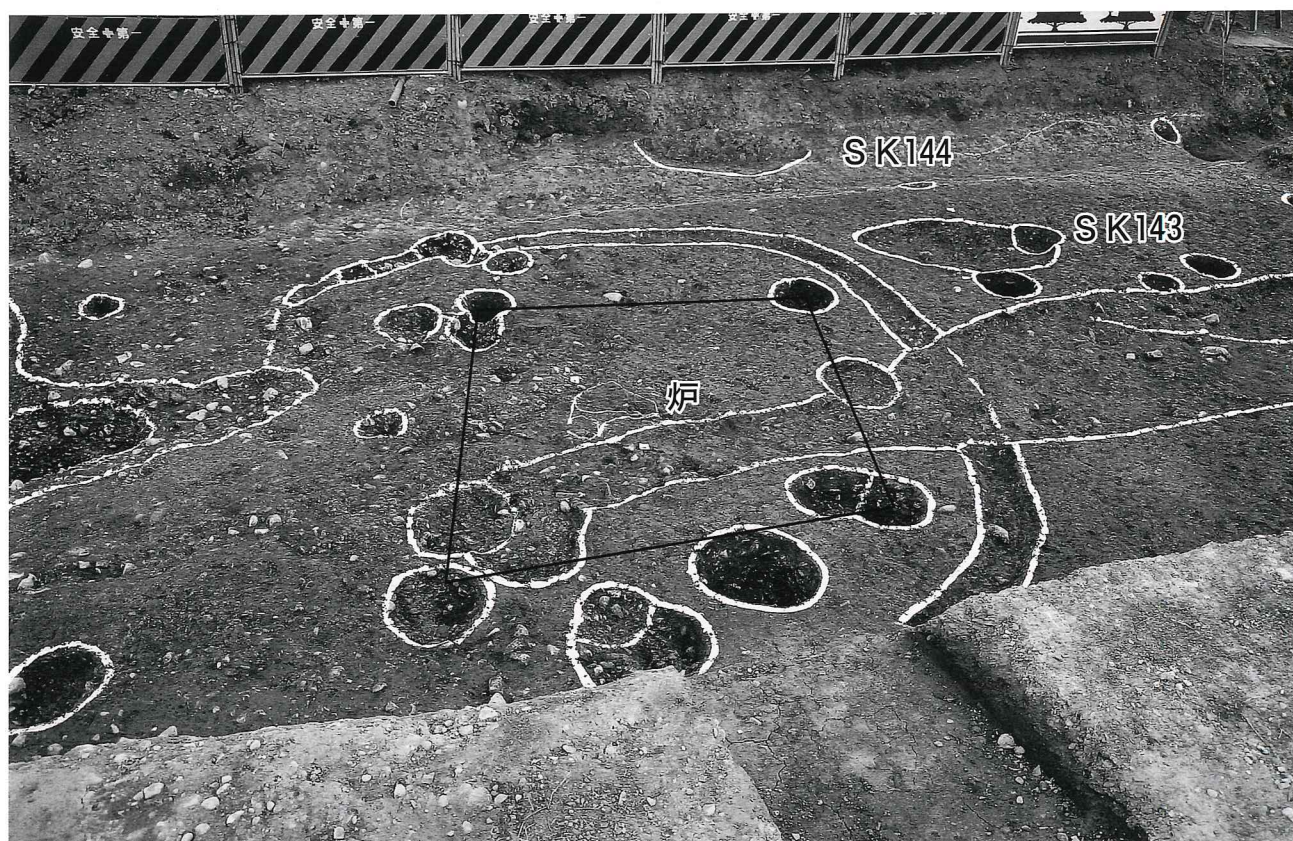
(1) 第62次発掘調査区空中写真遠景
(手前の住宅地が掛之上遺跡が立地する段丘、その上は原野谷川、最上端は北部丘陵地である。南より)



(2) 第62次発掘調査区空中写真全景
(手前に弥生後期の土器が大量に出土した小谷があり、段丘涯付近まで弥生後期の竪穴住居が存在することが分かる。北より)



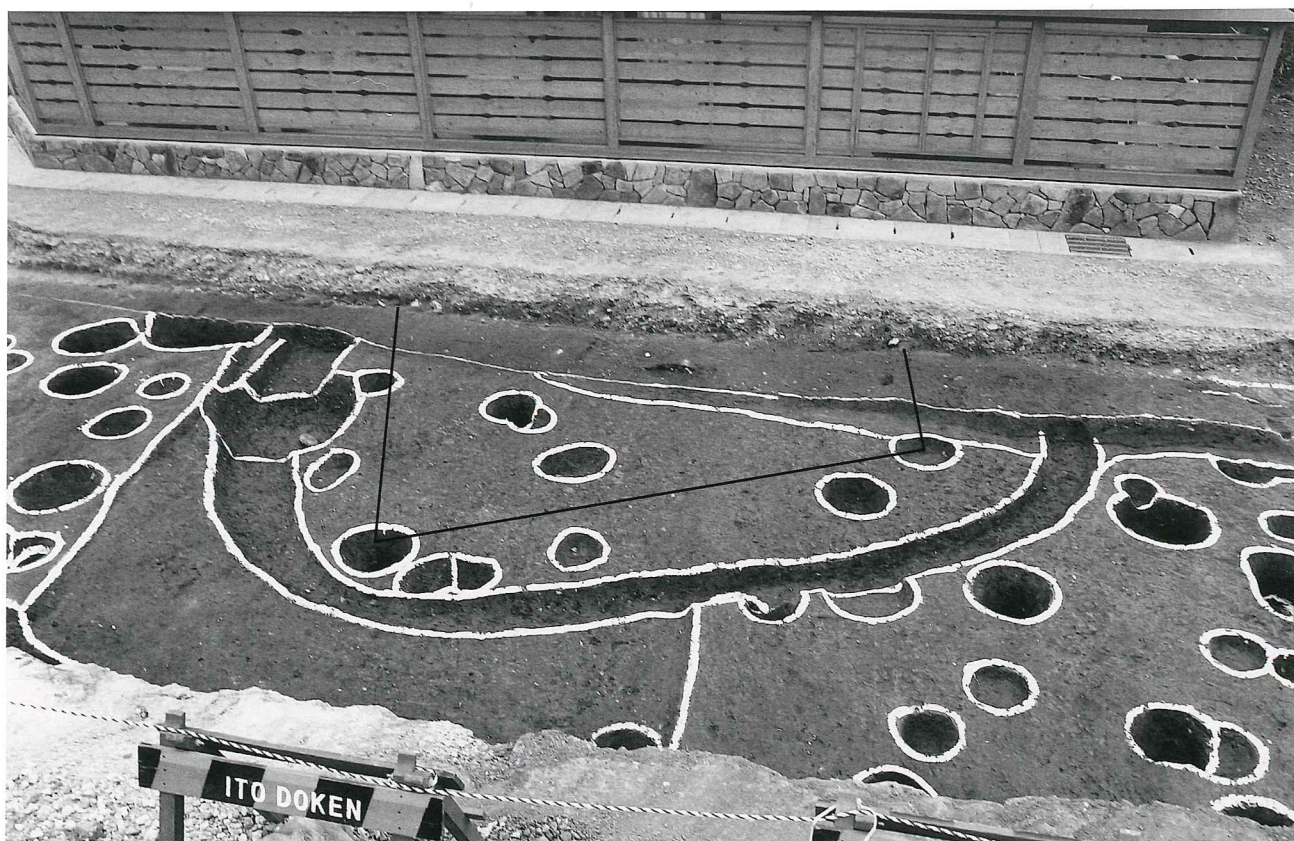
(1) 第62次発掘調査区空中写真全景
 (中央の溝は近世～近代排水用の溝、周辺には弥生後期の竪穴住居や
 方形周溝墓、鎌倉時代の掘立柱建物が存在する。上が西で、真上より)



(2) S B44
 (弥生後期の隅丸方形の竪穴住居である。中央に炉跡が見られる。西より)



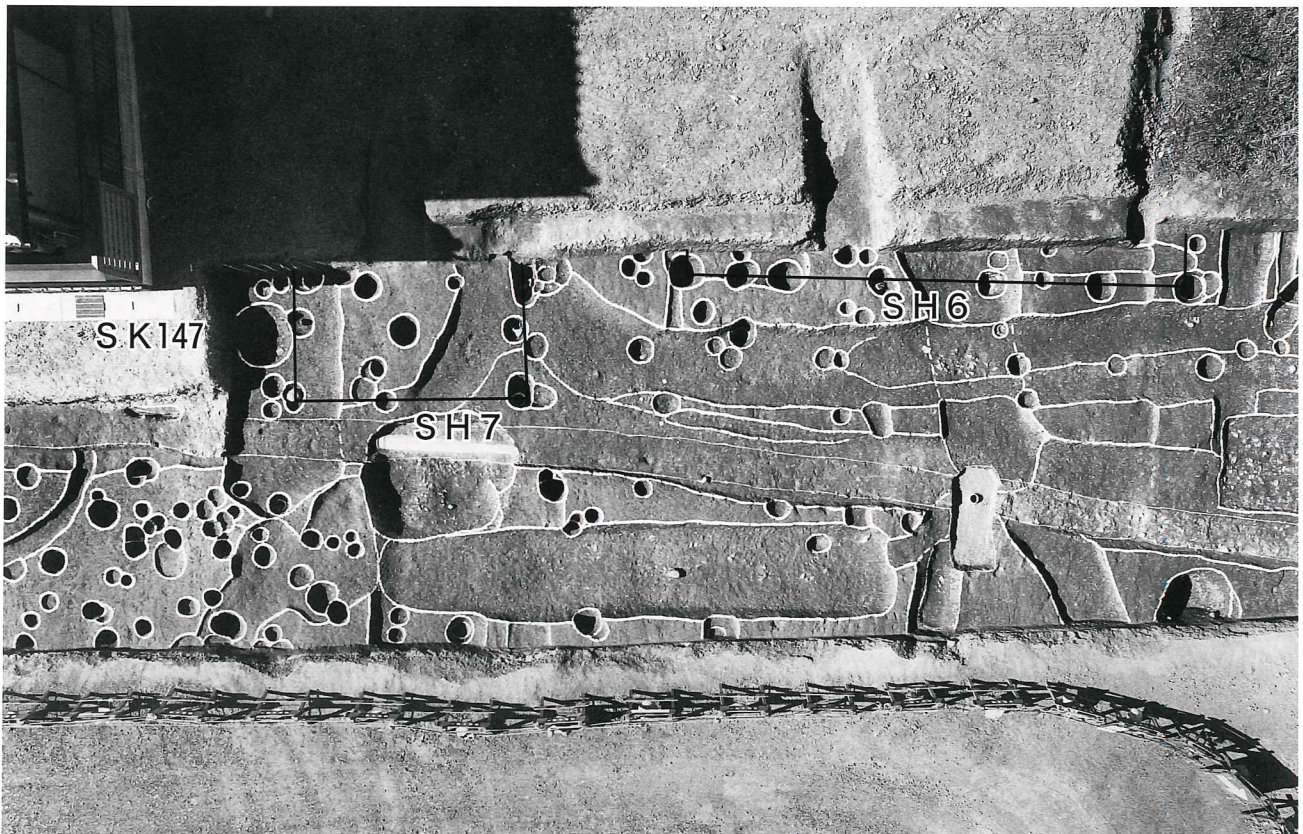
(1) S B44炉跡（あまりよく焼けていない地床炉である。南より）



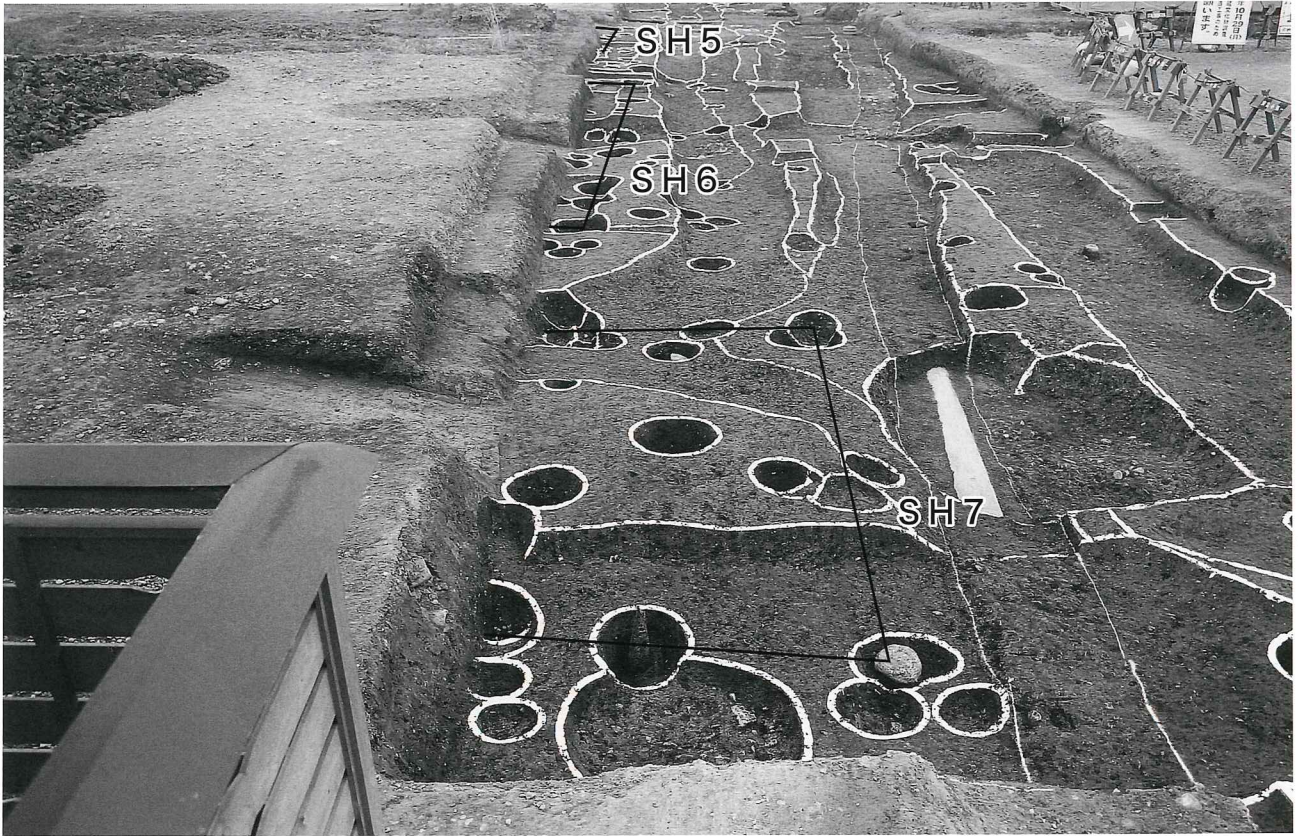
(2) S B22（弥生後期の楕円形の竪穴住居である。東より）



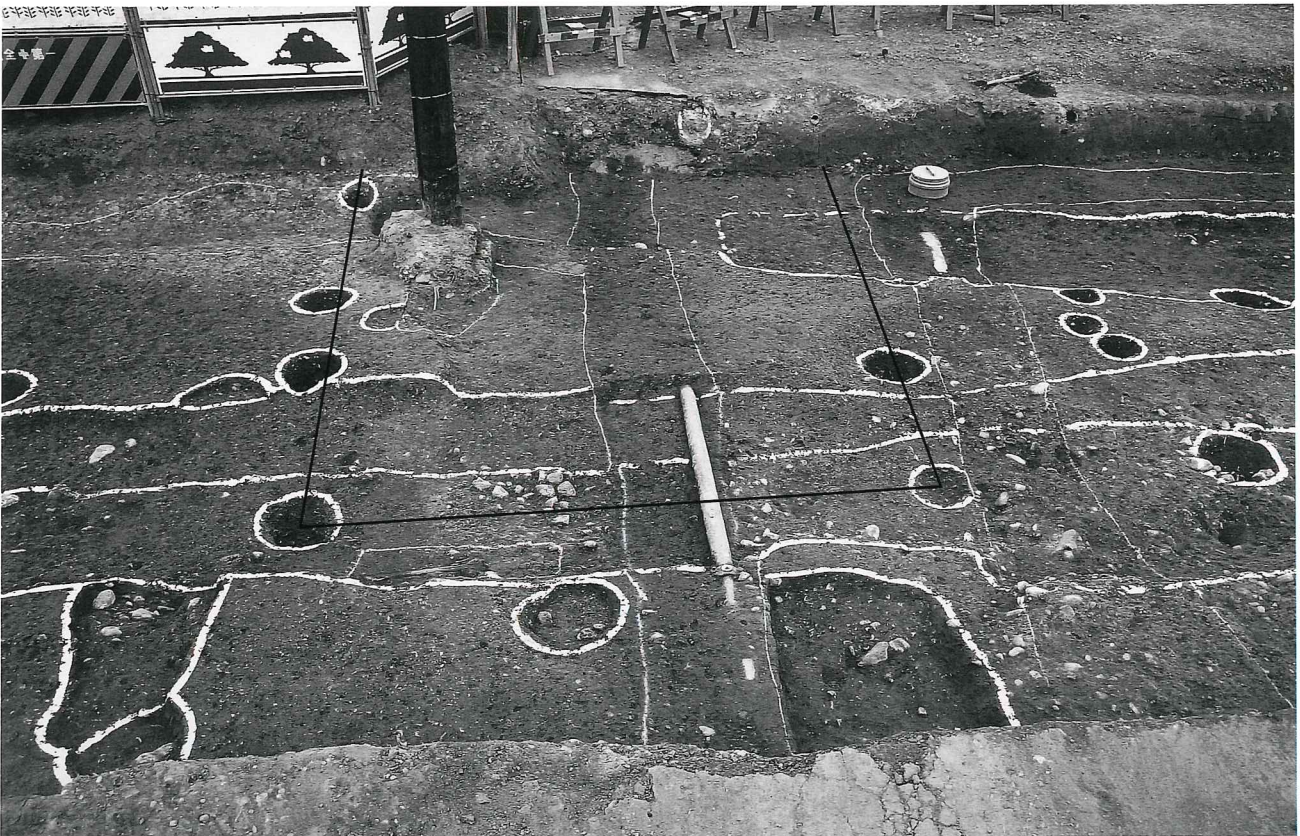
(1) SH5 (鎌倉時代の掘立柱建物の一部と思われる。北より)



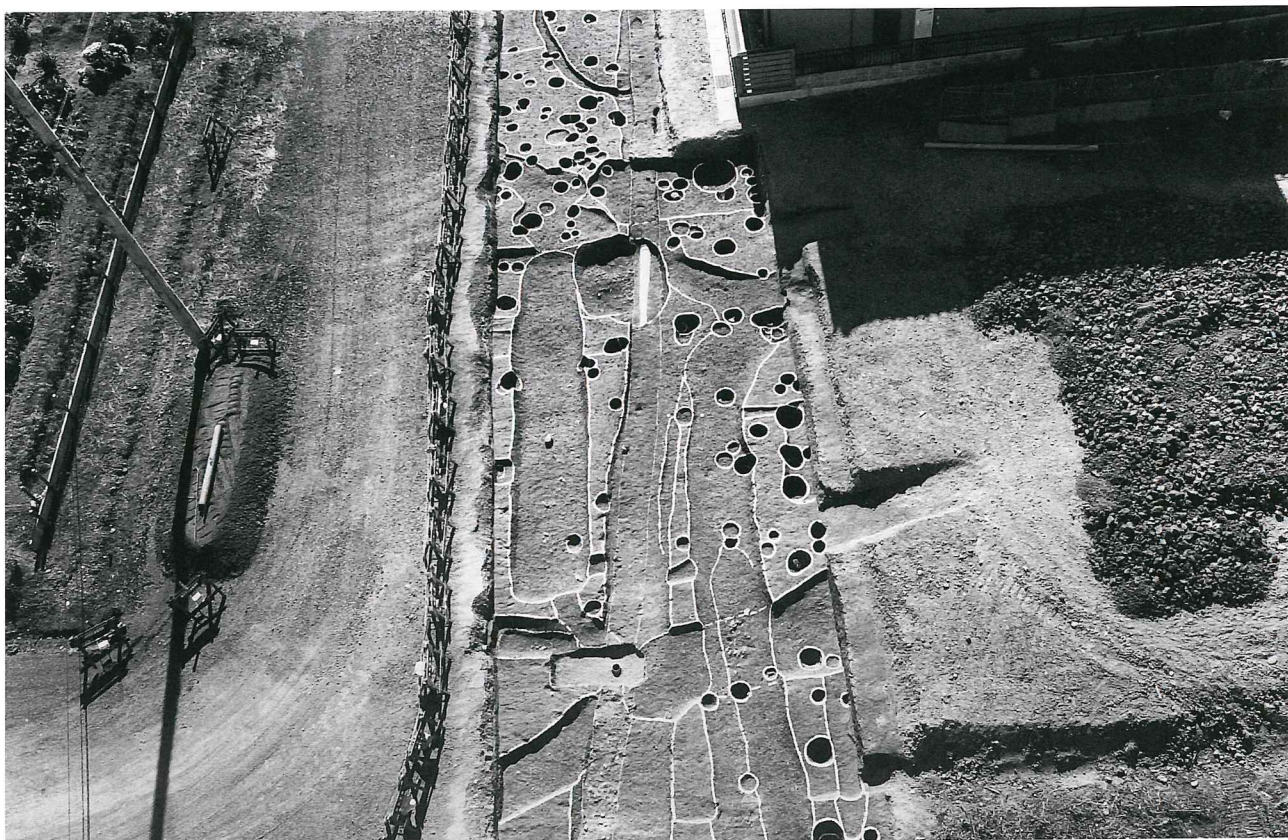
(2) SH6・7 空中写真
(鎌倉時代の掘立柱建物の一部と思われ、整然と並んでいる。南より)



(1) SH5～7
(鎌倉時代の掘立柱建物の一部と思われ、礎石をもつ柱穴も見られる。南より)



(2) SH8 (鎌倉時代の掘立柱建物と思われる。西より)



(1) S Z 1 空中写真 (弥生後期の四隅に陸橋のある方形周溝墓である。南より)



(2) S Z 1 北東コーナー部分 (浅い連結溝が見られる。北より)



(1) S Z 1 東溝土層
(土層からは自然堆積を示し、盛土の流入は見られなかった。北より)



(2) S K 1 (弥生後期の土器片が大量に出土した。北より)



(1) S K143
(弥生後期の楕円形の土坑で、壺などの破片が出土した。北東より)



(2) S K143・144
(いずれも弥生後期の楕円形の土坑で、S B44の周辺に見られる。西より)



(1) S K146 (近世の深い円形土坑で、水溜用と思われる。西より)



(2) S K147 (鎌倉時代の浅い円形土坑で、SH7の傍らに見られる。西より)



(1) S P 23 (中世の掘立柱建物の柱穴で、根巻石が見られる。北より)



(2) S P 58 (古墳前期の小型壺が埋納されていた。地鎮のための遺物か。南より)



(1) 調査区北端自然谷
(弥生中～後期、古墳後期の遺物が大量に出土した。自然の流路が見られた。北より)



(2) 調査区北端自然谷土層
(黒色土が厚く堆積し、弥生後期の自然の流路と思われる溝が見つかった。東より)



(1) 調査区西壁中央土層
(厚さ10cmの包含層が見られるが、調査区全域には及ばない。東より)



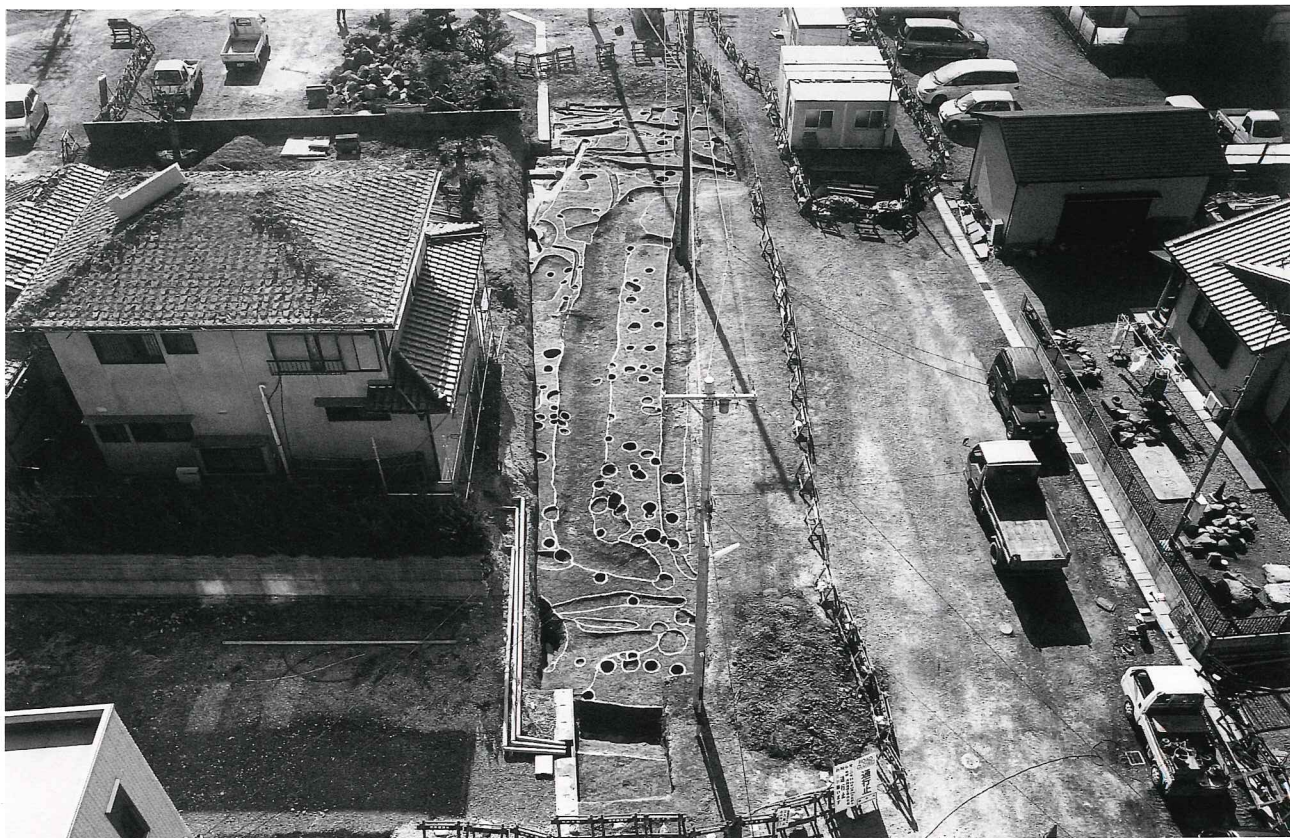
(2) 重機による表土掘削作業風景
(包含層がほとんど存在していないため、遺構確認面までの表土を除去した。)



(1) 作業員による遺構調査作業風景
(調査区北端の谷や竪穴住居 (S B44) の調査を進めている。)



(2) ラジコンヘリによる写真撮影・測量作業風景



(1) 第64次発掘調査区空中写真全景
(手前と中央に戦国期の屋敷地の区画溝、全面に弥生後期の竪穴住居や柱穴が展開する。北より)



(2) 第64次発掘調査区空中写真全景
(右側に弥生後期の竪穴住居が集中して見られる。上が東で、真上より)



(1) 第64次発掘調査区西端空中写真
(弥生後期の竪穴住居や土坑、掘立柱建物が見られる。東より)



(2) SB15
(弥生後期の竪穴住居で、壁溝から最低6回の建替があったことが分かる。西より)



(1) S B15焼土（床面が全面焼けており、焼失家屋であることが分かる。西より）



(2) S B15出土石器（壁溝内より出土した、扁平片刃石斧である。西より）



(1) S B45

(戦国期の溝でほとんど壊されているが、炉跡2箇所と柱穴が検出できた。北より)



(2) S B45炉跡1 (よく焼けている地床炉である。南より)



(1) S B46

(西半分しか検出されていないが、弥生後期の隅丸方形の竪穴住居と思われる。南より)

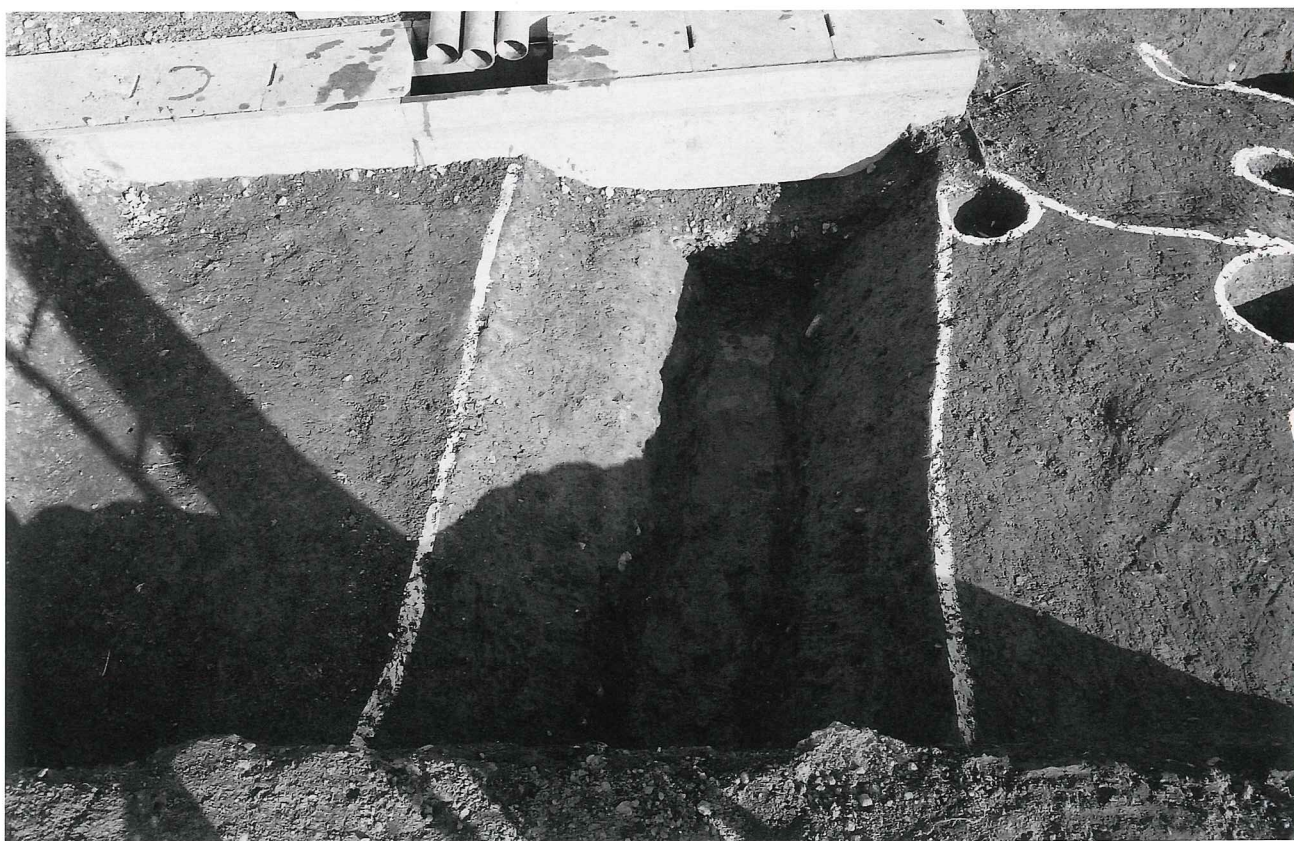


(2) S B47

(弥生後期の隅丸方形の竪穴住居と思われるが、中～近世の溝で一部壊されている。西より)



(1) SH10 (弥生後期の掘立柱建物であるが、竪穴住居の柱穴かもしれない。西より)



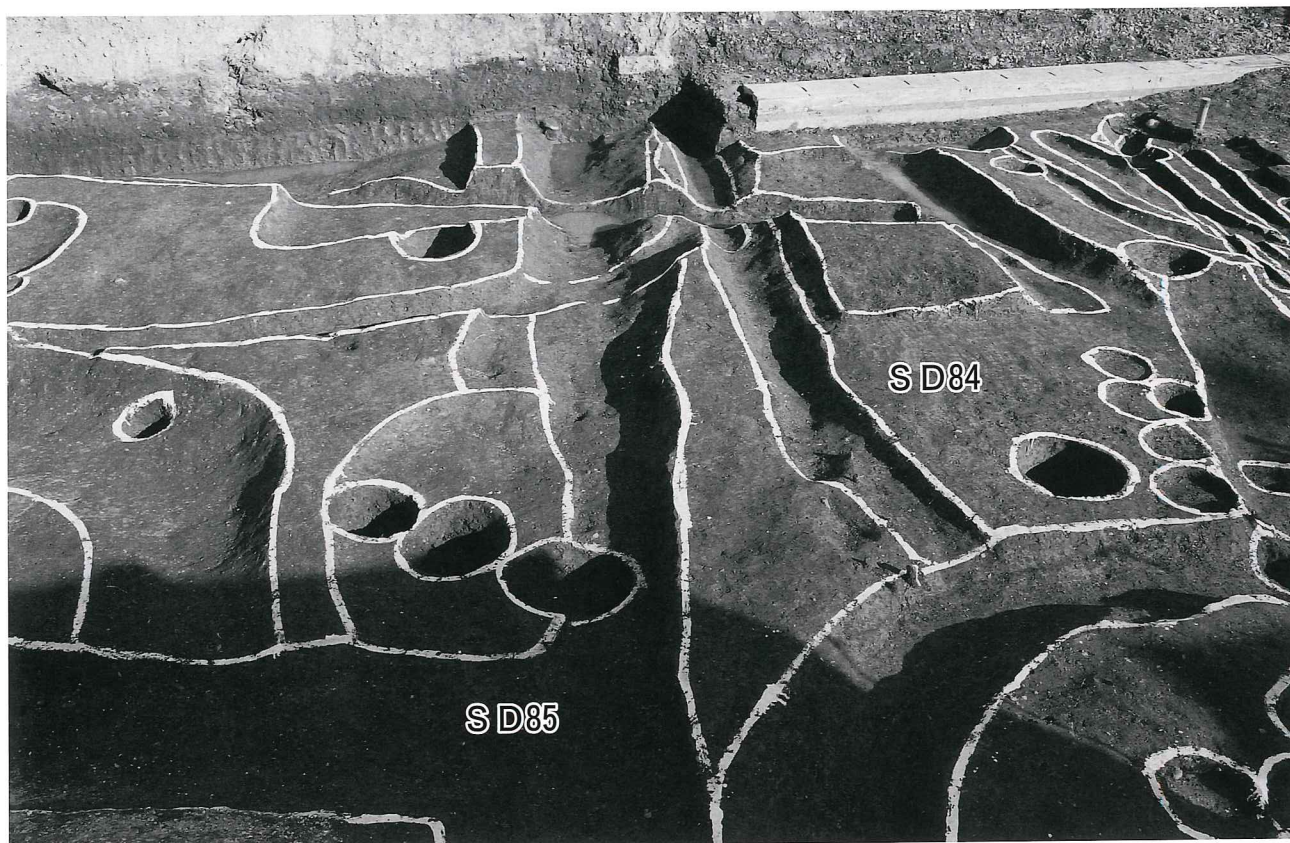
(2) SD2 (戦国期の屋敷地の区画溝である。西より)



(1) S D 2土層（やや深い断面葉研状の堀で、土層からは自然堆積を示す。東より）



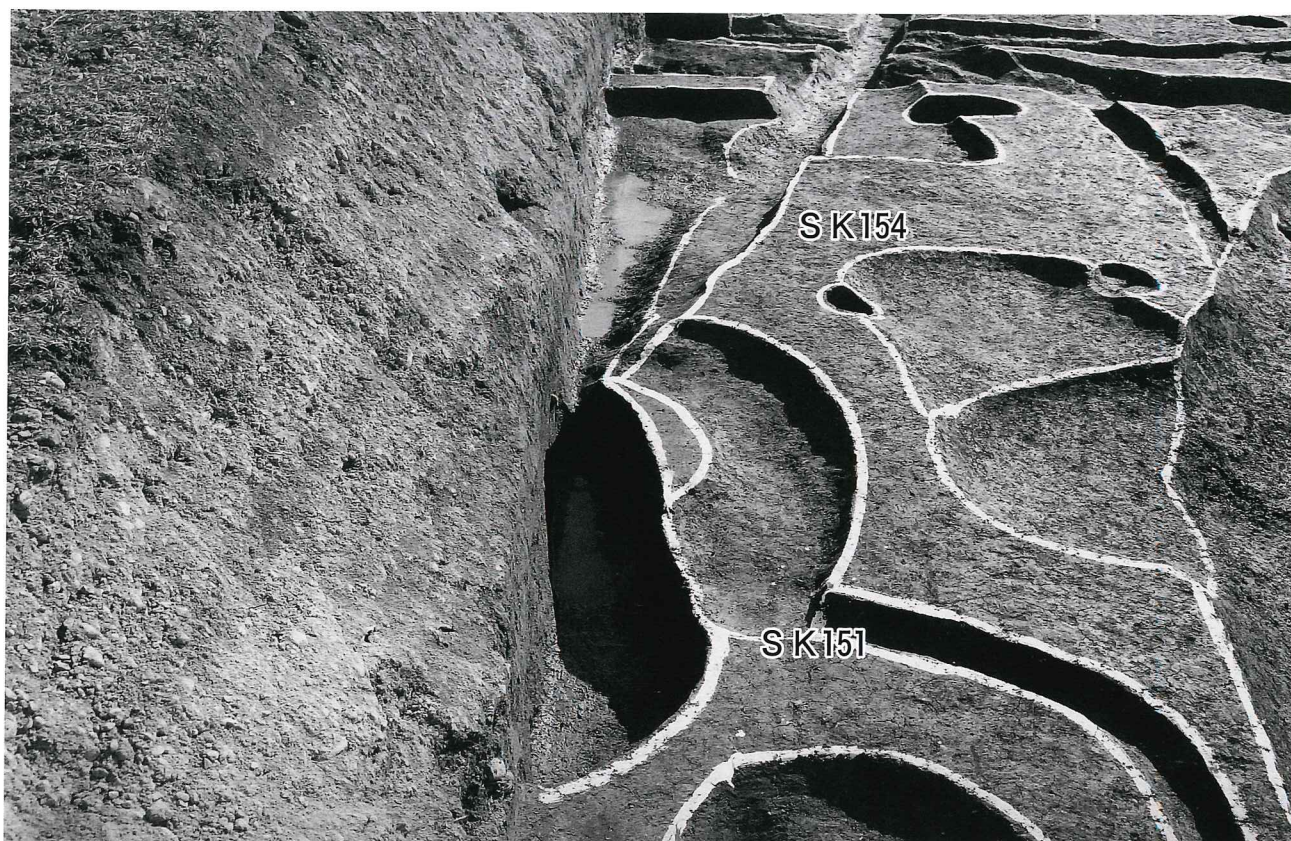
(2) S D 81（浅い断面U字の戦国期の区画溝である。南より）



(1) S D84・85 (近世～近代の畑地の排水も兼ねた地割溝である。西より)



(2) S K50 (弥生後期の土坑で、土器片がまとまって出土した。西より)



(1) S K151・154
(弥生後期の土坑である。S K151からは土器片がまとまって出土した。北より)



(2) 調査区東壁北側土層
(厚さ30cmの包含層が確認できるが、調査区内は現道であつたため包含層はほとんど存在しなかつた。西より)



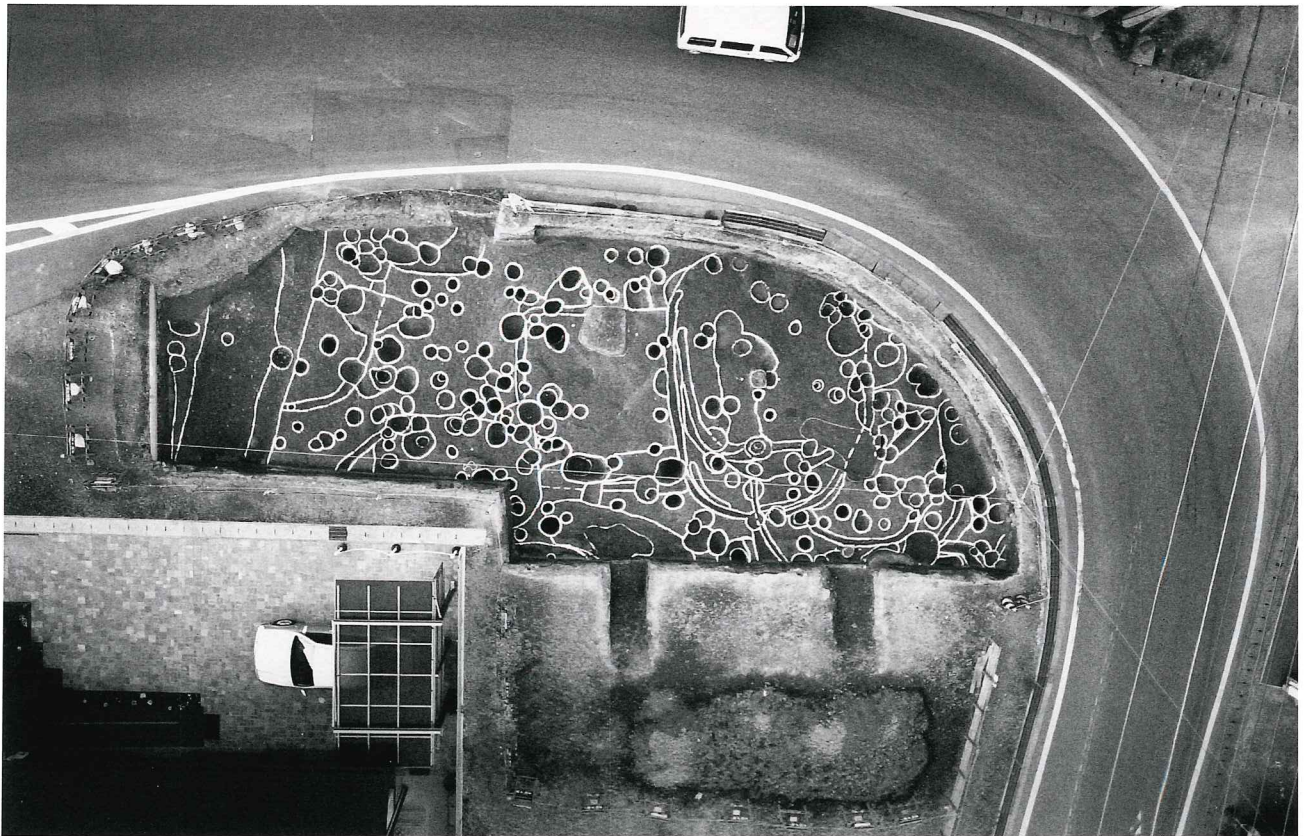
(1) 重機による表土掘削作業風景
(東端で一部包含層は確認できたが、概ね表土を遺構確認面まで除去することができた。)



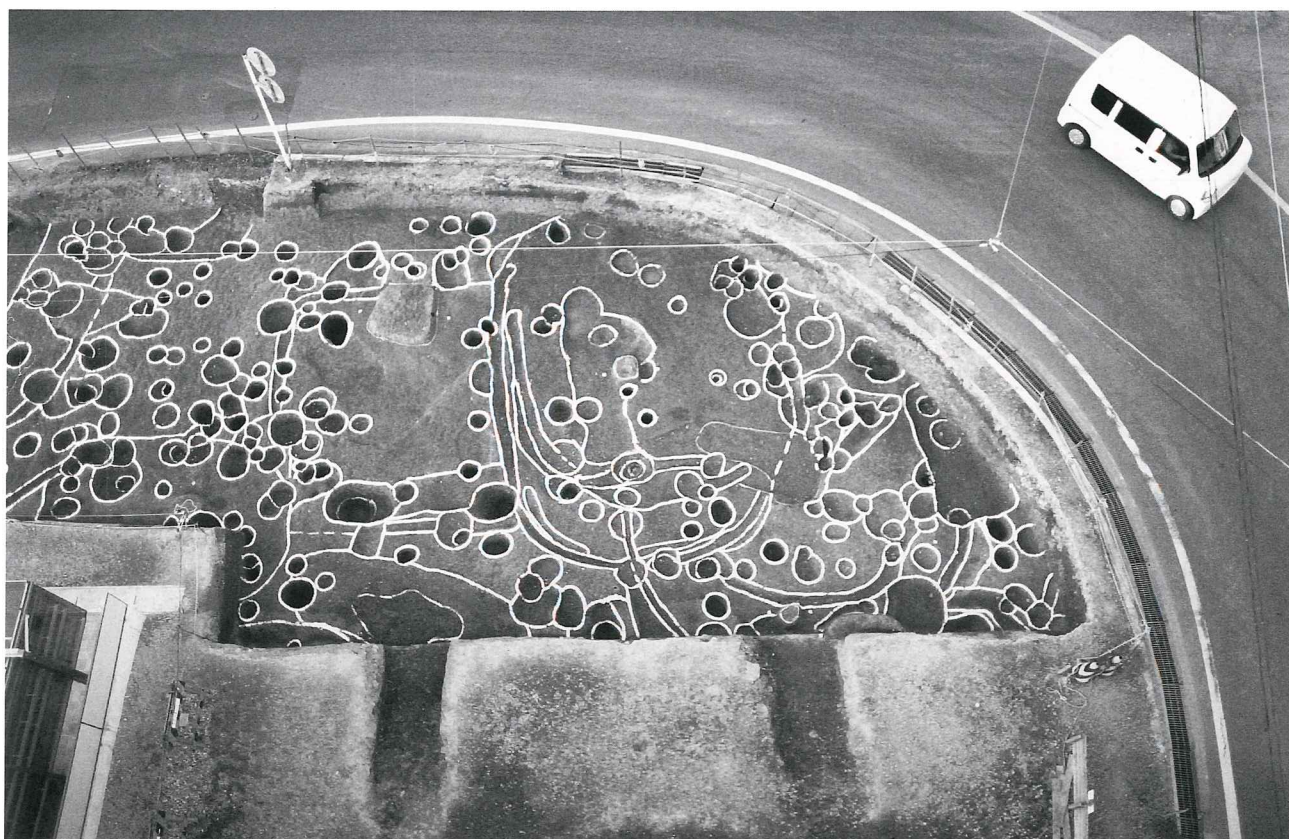
(2) ラジコンヘリによる写真撮影・測量作業風景



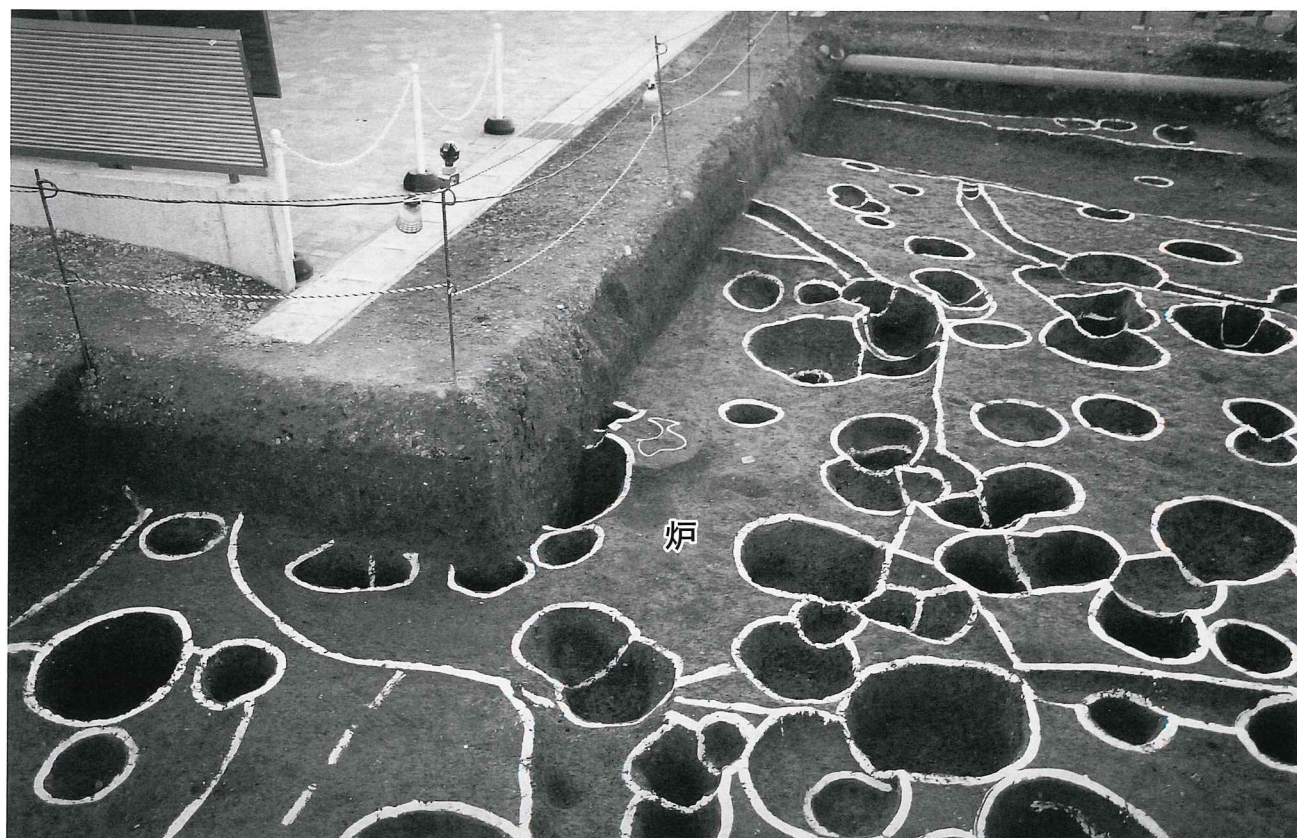
(1) 第65次発掘調査区空中写真全景
(全面に弥生後期の竪穴住居や土坑、古墳後期の竪穴住居が展開する。東より)



(2) 第65次発掘調査区空中写真全景
(とくに右側に弥生後期の竪穴住居が集中して見られる。上が北で、真上より)



(1) 第65次発掘調査区東端空中写真
(右が弥生後期の竪穴住居、左が古墳後期のかまど付竪穴住居である。上が北で、真上より)



(2) SB6
(弥生後期の楕円形の竪穴住居である。中央に炉跡が見られる。東より)



(1) SB6 炉跡
(よく焼けている地床炉であるが、後の柱穴により壊されている。北より)



(2) SB10
(古墳後期の方形となる竪穴住居である。北壁にはかまどが見られる。南より)



(1) S B10かまど (保存状況の良い大型のかまどが検出できた。南より)

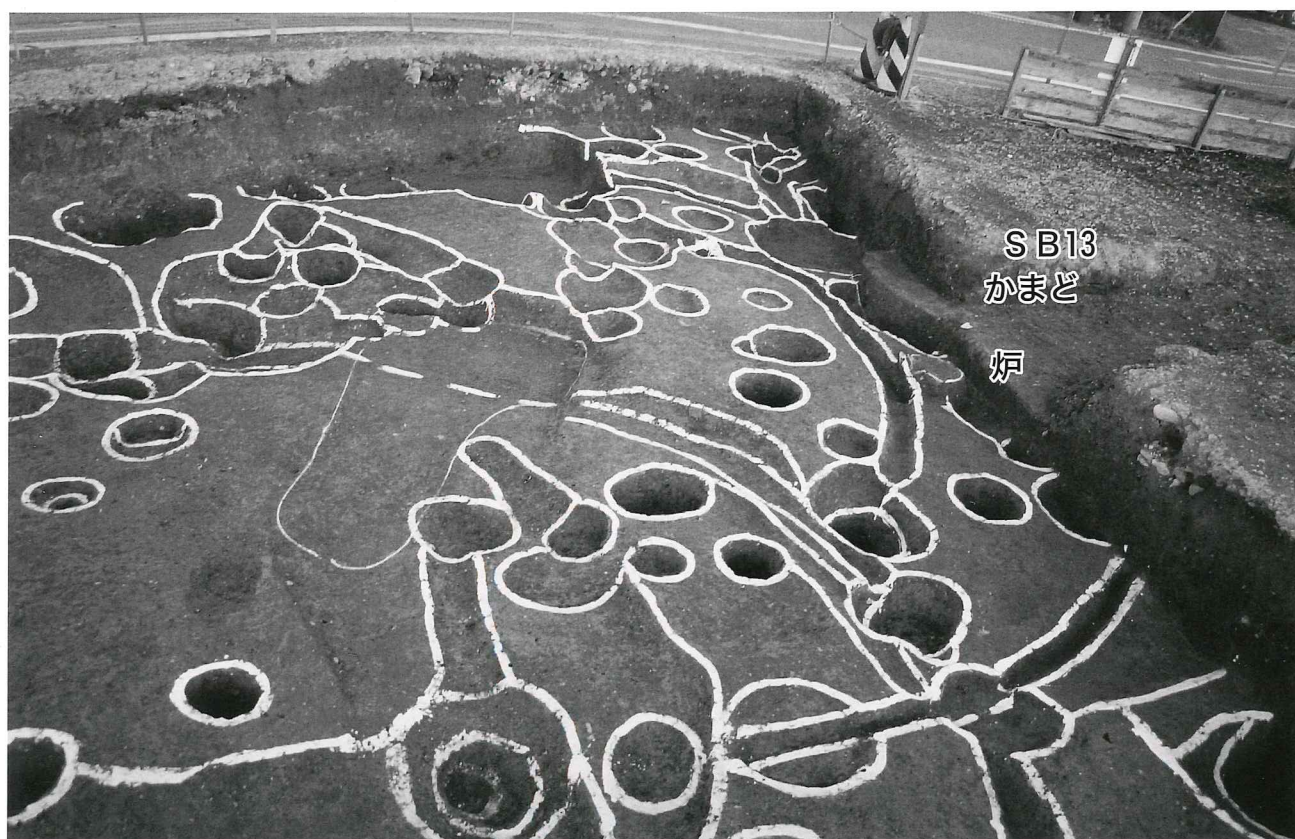


(2) S B11

(弥生後期の楕円型の竪穴住居である。中央に炉跡が見られ、壁溝から最低4回の建替が確認できた。南より)



(1) S B11炉跡（よく焼けている地床炉であるが、焼けている範囲は狭い。南より）



(2) S B12

（弥生後期の楕円形の竪穴住居であるが、大半はS B11により壊されている。西より）



(1) S B12焼土
(炉跡と思われる焼土であるが、位置から見てS B12に伴わない可能性もある。北より)



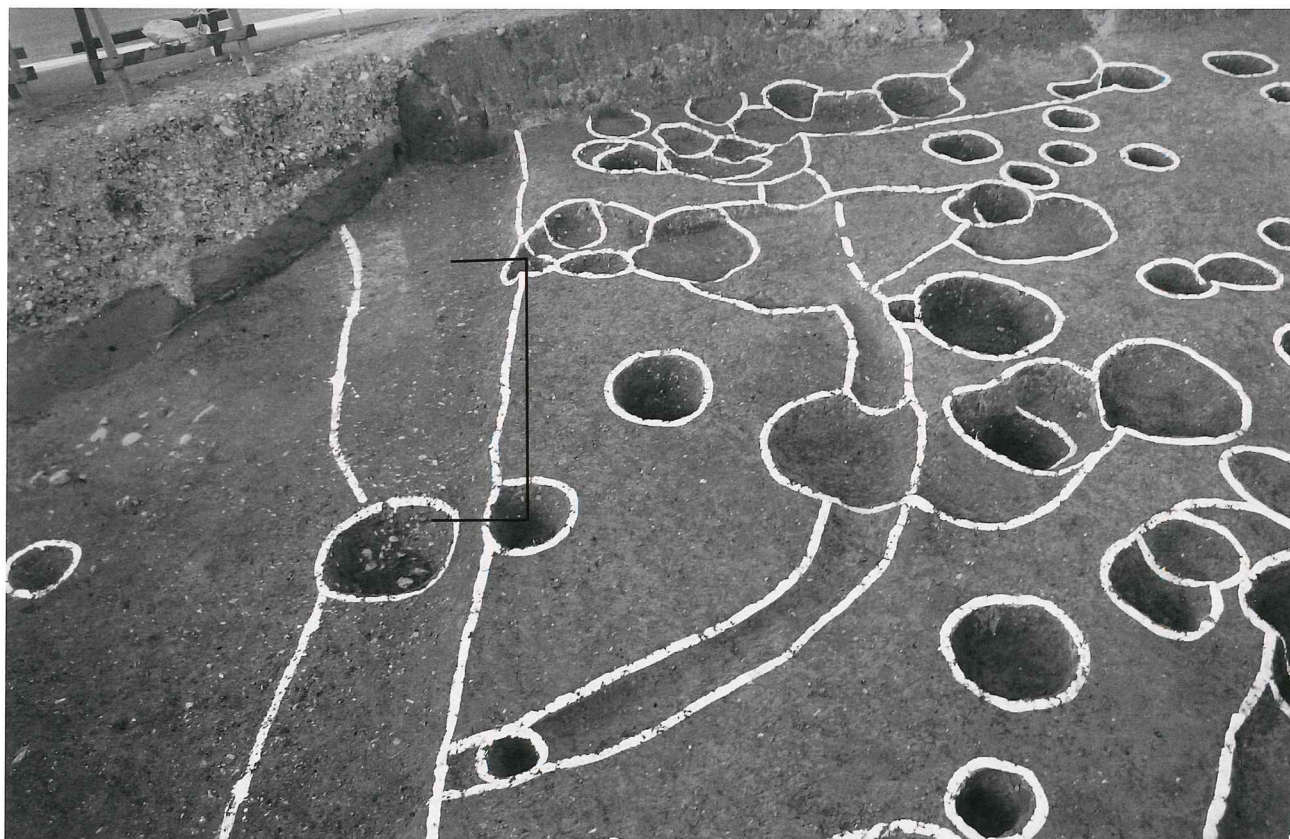
(2) S B12炉跡
(よく焼けている地床炉であるが、柱穴との重複が見られ残存状況はよくない。南より)



(1) SBI2出土土器（貼床面下から出土している、壺形土器の胴部下半である。西より）



(2) SBI3かまど
（古墳後期の大型のかまどであるが、竪穴住居の大半は南側の調査区外に位置する。北より）



(1) S B14

(S D42により大半は壊されているが、弥生後期の楕円形の竪穴住居と思われる。南より)



(2) S D42 (奈良時代の郡衙正倉東辺を区画する溝と思われる。南より)



(1) S D42土層
(土層から見ると1回の掘りなおしがあるようである。土層からは自然堆積と見られる。北より)



(2) S K46 (弥生後期の楕円形土坑である。土器片が出土した。南より)



(1) S K49

(弥生後期の浅い楕円形の土坑である。土器片がまとまって出土した。北より)



(2) 調査区南壁東側土層

(厚さ30cmの包含層が確認できた。調査区西端では薄くなるようである。北より)



(1) 作業員による遺構調査風景（S B11付近の調査を行っている。）



(2) ラジコンヘリによる写真撮影・測量作業風景



(1) 第67次発掘調査区空中写真全景
(全面に弥生後期の竪穴住居や土坑、弥生後期～古墳初頭の方形周溝墓、
奈良時代の区画溝と大型掘立柱建物が展開する。南より)



(2) 第67次発掘調査区空中写真全景
(方形の溝は弥生後期～古墳初頭の方形周溝墓で奈良時代の区画溝と重複する。
右手には土間式の大型掘立柱建物が見られる。上が西で、真上より)

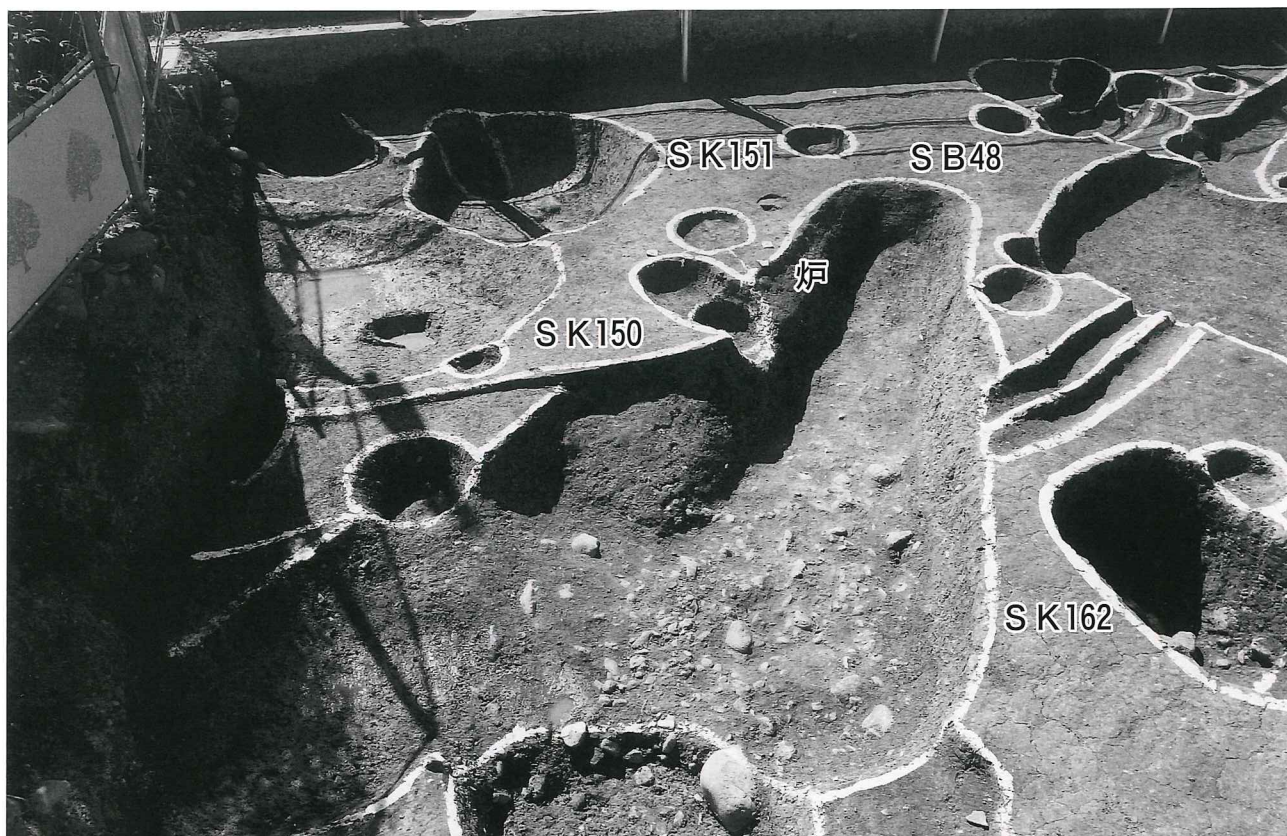


(1) S B32

(弥生後期の隅丸方形の竪穴住居である。中央に炉跡が見られる。
壁溝から最低3回の建替があったことが確認できた。北より)



(2) S B32炉跡 (よく焼けている保存状況のよい地床炉である。北より)



(1) S B48

(弥生後期の竪穴住居であるが、S K150・151・162などの弥生後期の土坑によってほとんど壊され形態は分からない。中央に炉跡が見られ、壁溝から最低2回の建替があったと思われる。北より)



(2) S B48炉跡

(あまりよく焼けていない地床炉である。土坑や柱穴により壊され残存状況はよくない。南より)



(1) S K162出土土器（弥生後期の壺である。浮いた状態で出土した。東より）

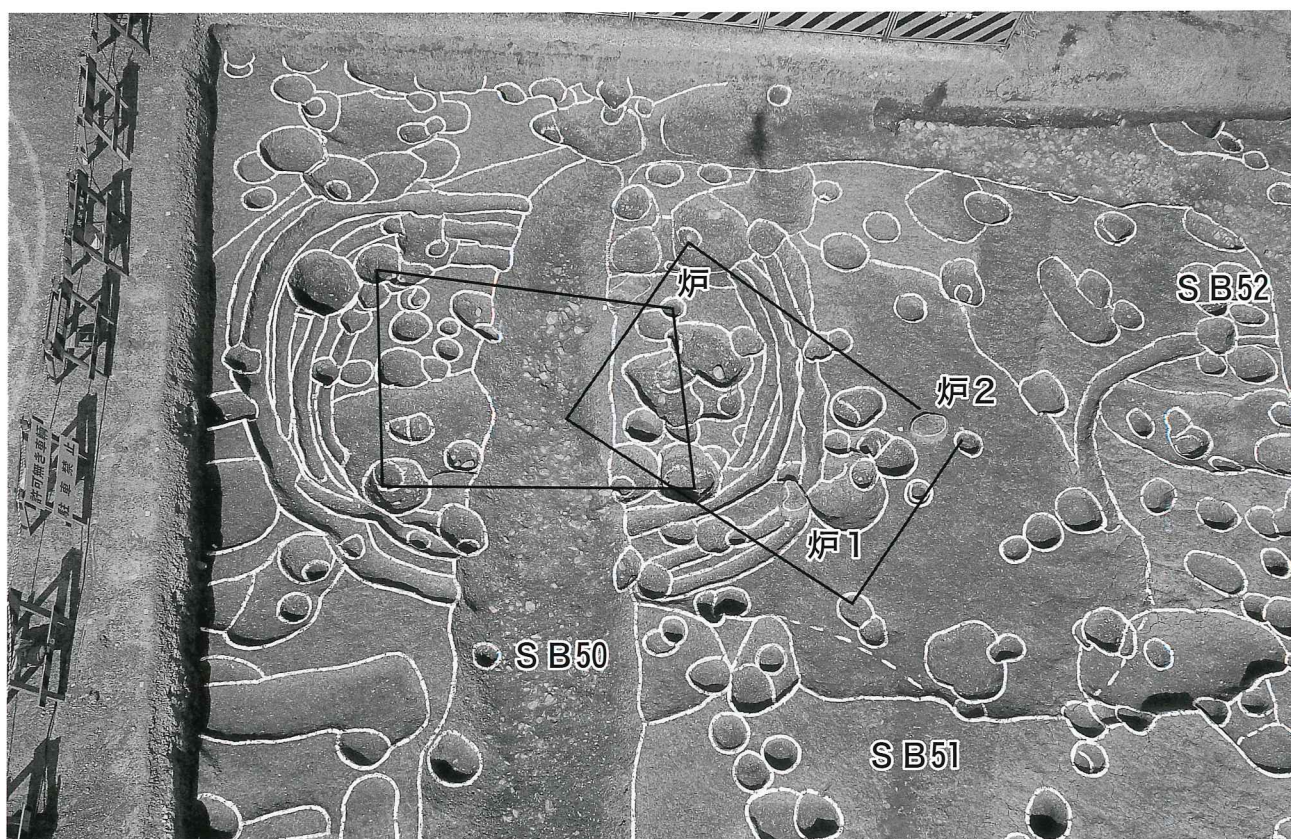


(2) S B49

（弥生後期の竪穴住居であるが、S K150・151・162などの弥生後期の土坑によってほとんど壊され形態は分からない。中央に炉跡が見られる。西より）

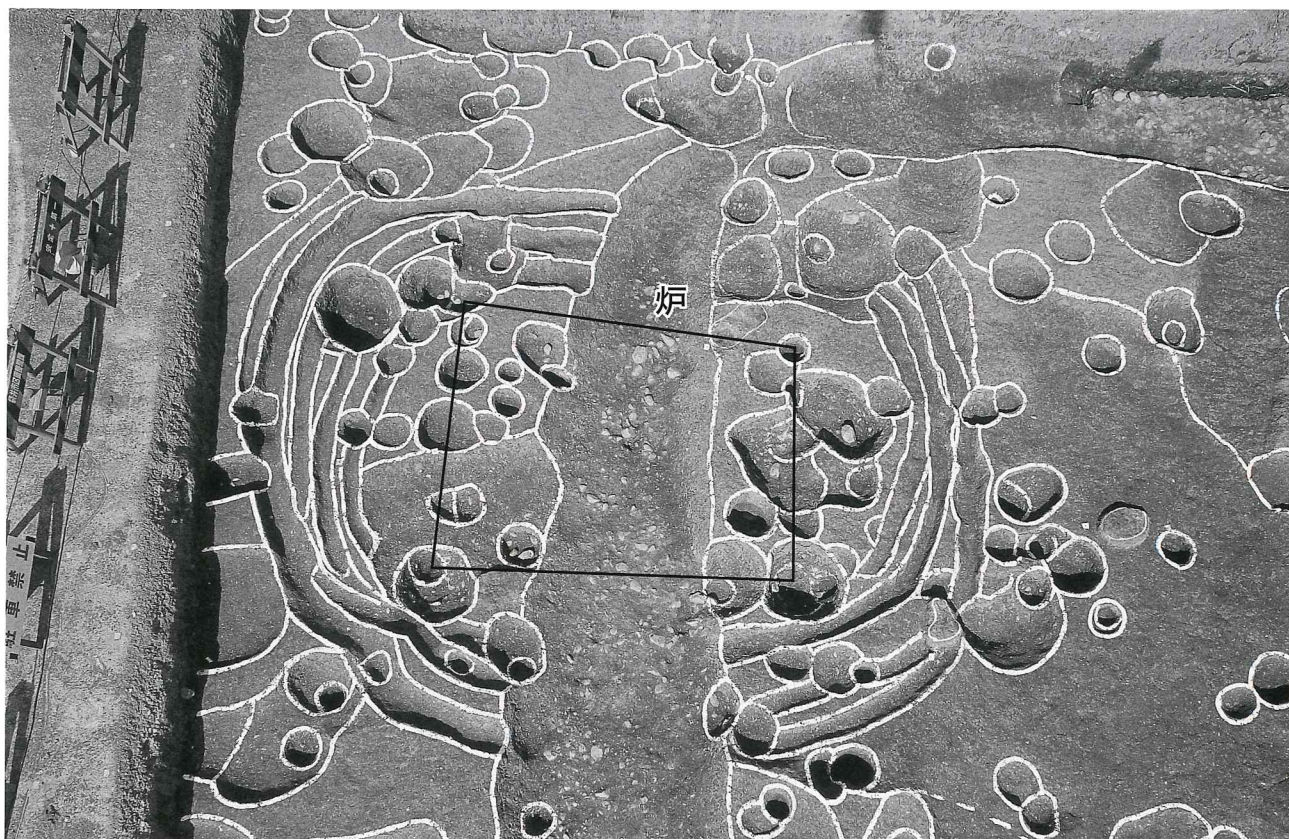


(1) S B68炉跡（柱穴によりほとんど壊された地床炉である。南より）



(2) S B50～52空中写真

（弥生後期の楕円形の竪穴住居であるが、炉跡の状況から見ると右手のS B50のほうが古い。西より）



(1) S B50空中写真
 (弥生後期の楕円形の竪穴住居であるがS Z 2西溝により中央を
 分断されている。壁溝から見ると最低5回の建替を確認できた。南より)



(2) S B50炉跡
 (よく焼けている地床炉で、住居のかなり北側によった所で検出された。南より)



(1) S B51

(弥生後期の楕円形の竪穴住居である。掘方が深いので壁溝は確認できなかった。東より)

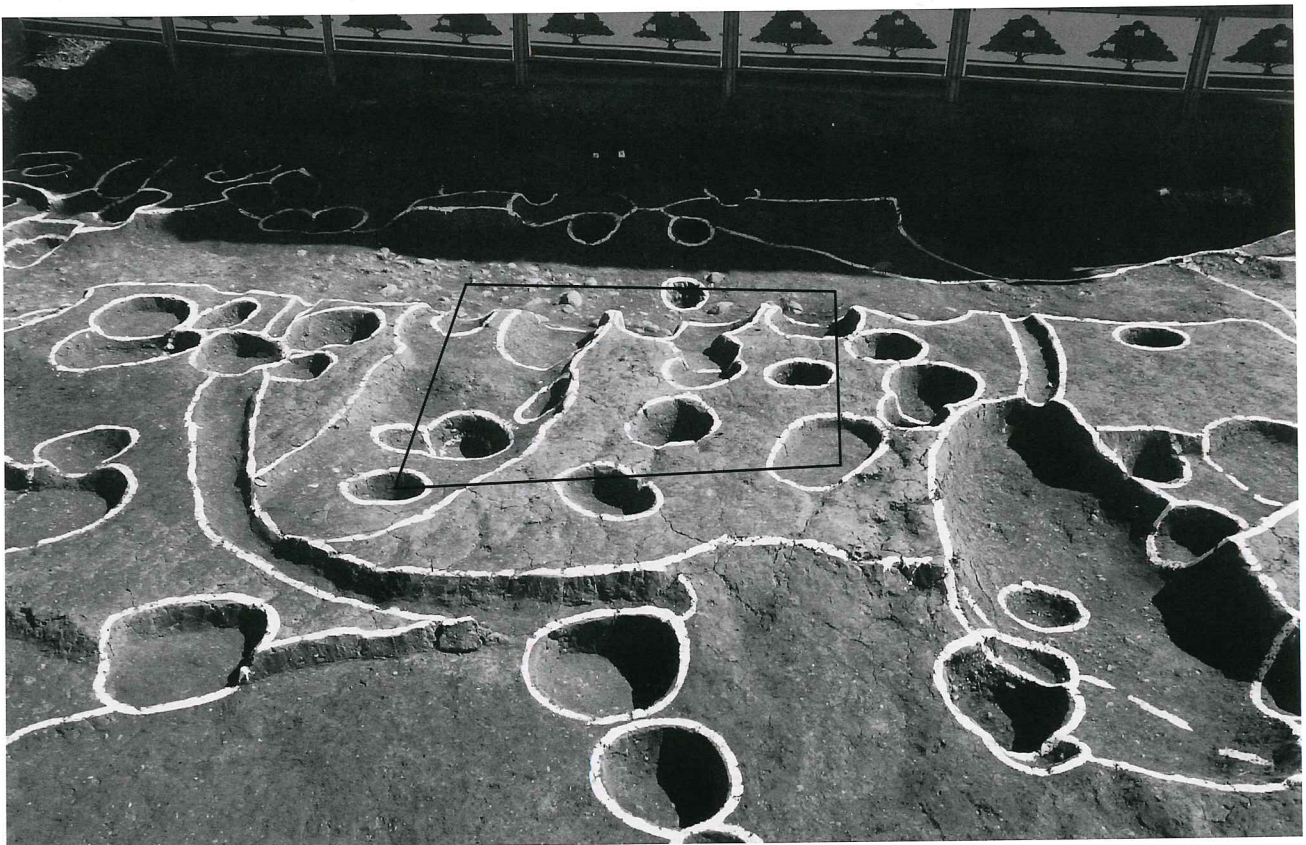


(2) S B51炉跡1

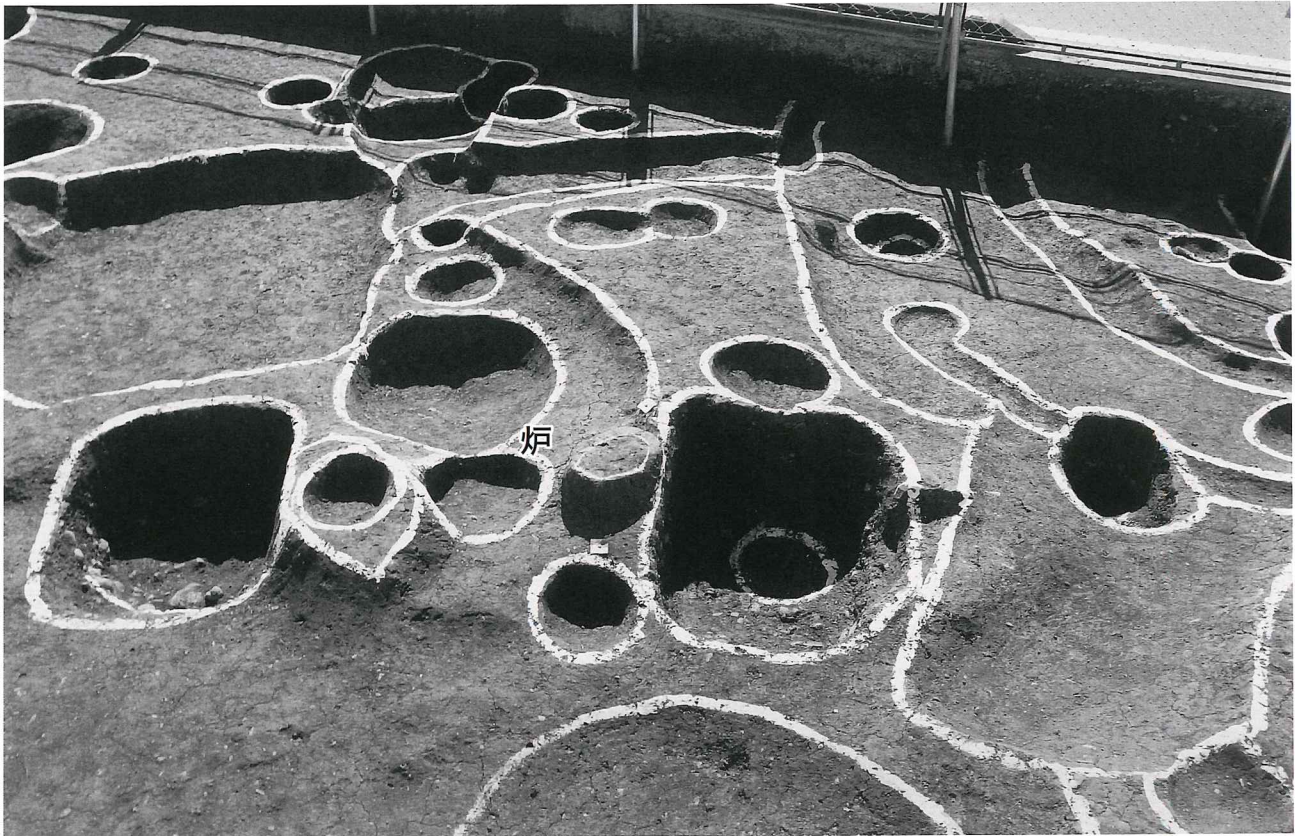
(あまりよく焼けていない地床炉である。S B50の壁溝と重複する。南より)



(1) S B51炉跡2
(よく焼けている地床炉である。住居の北側によった部分に見られる。南より)



(2) S B52
(弥生後期の楕円形の竖穴住居であるが、東半分をS Z 2東溝により壊されている。西より)

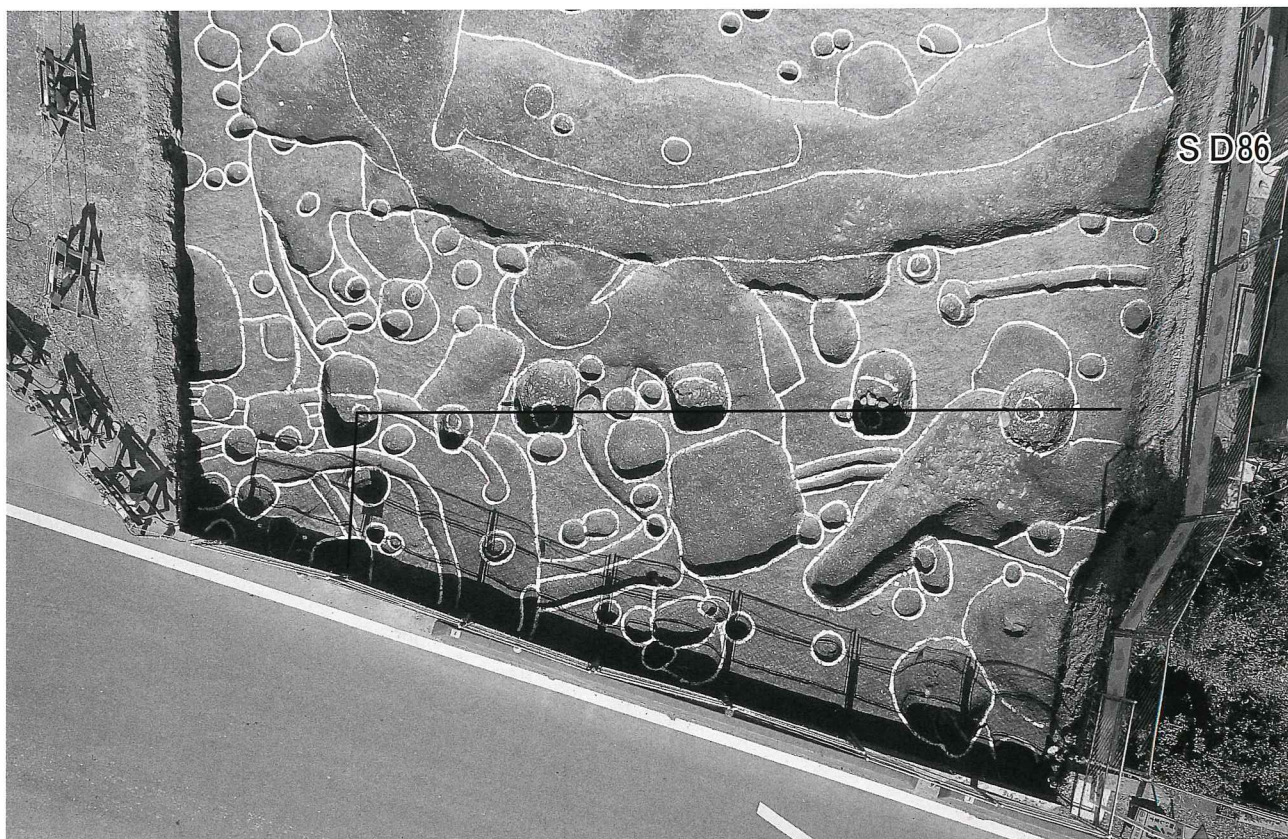


(1) S B53

(弥生後期の竪穴住居であるが、大半を土坑や柱穴により壊されているため、形態は分からない。北西より)



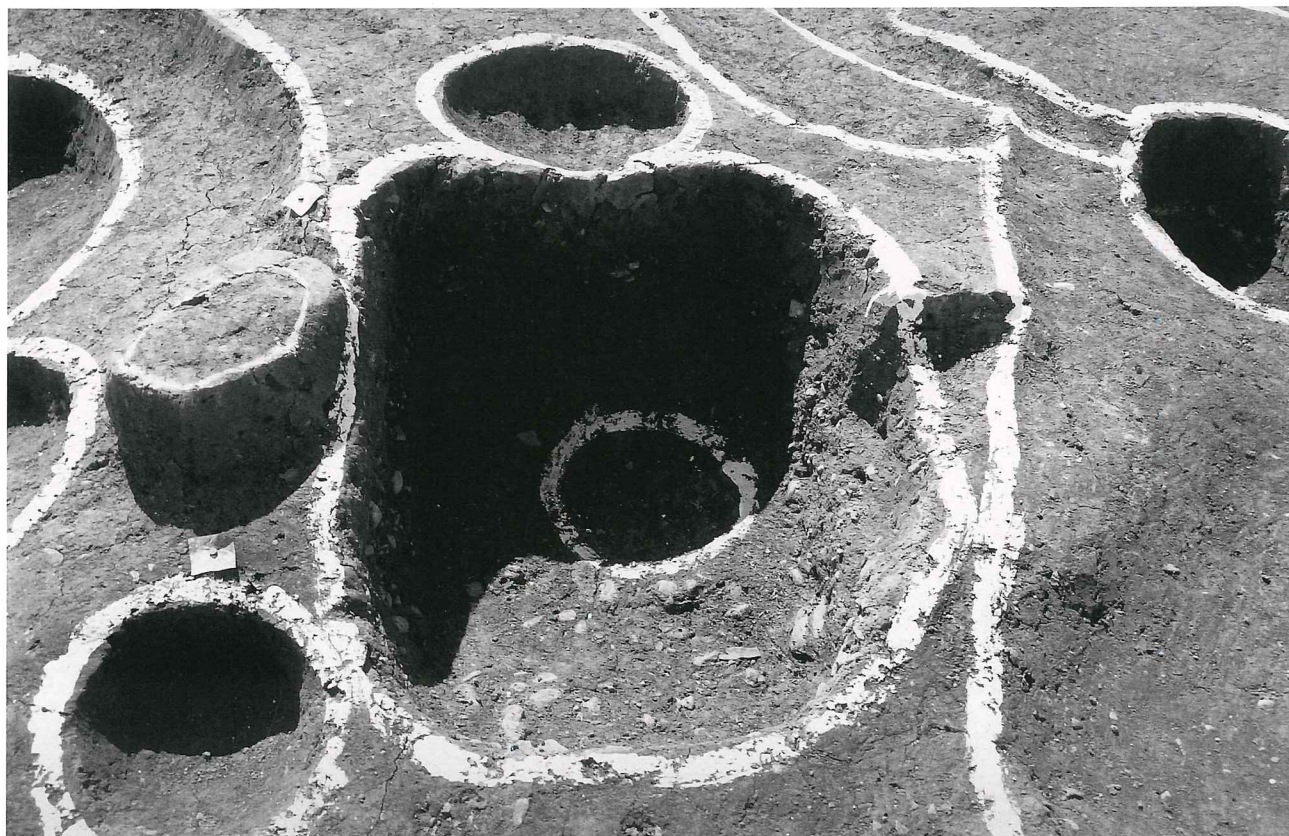
(2) B53炉跡 (あまりよく焼けていない地床炉である。南より)



(1) SH3空中写真
 (奈良時代の土間式の大型掘立柱建物で、大きさから見ても郡衙中枢部に関連した建物である。北側に区画溝(SD86)が存在する。上が北で、真上より)



(2) SH3 (梁行き3間、桁行き6間以上の縦長の大型掘立柱建物である。西より)



(1) SH3 SP10

(長方形の掘方をもち、底に直径30cmの柱穴の痕跡が確認できた。北より)

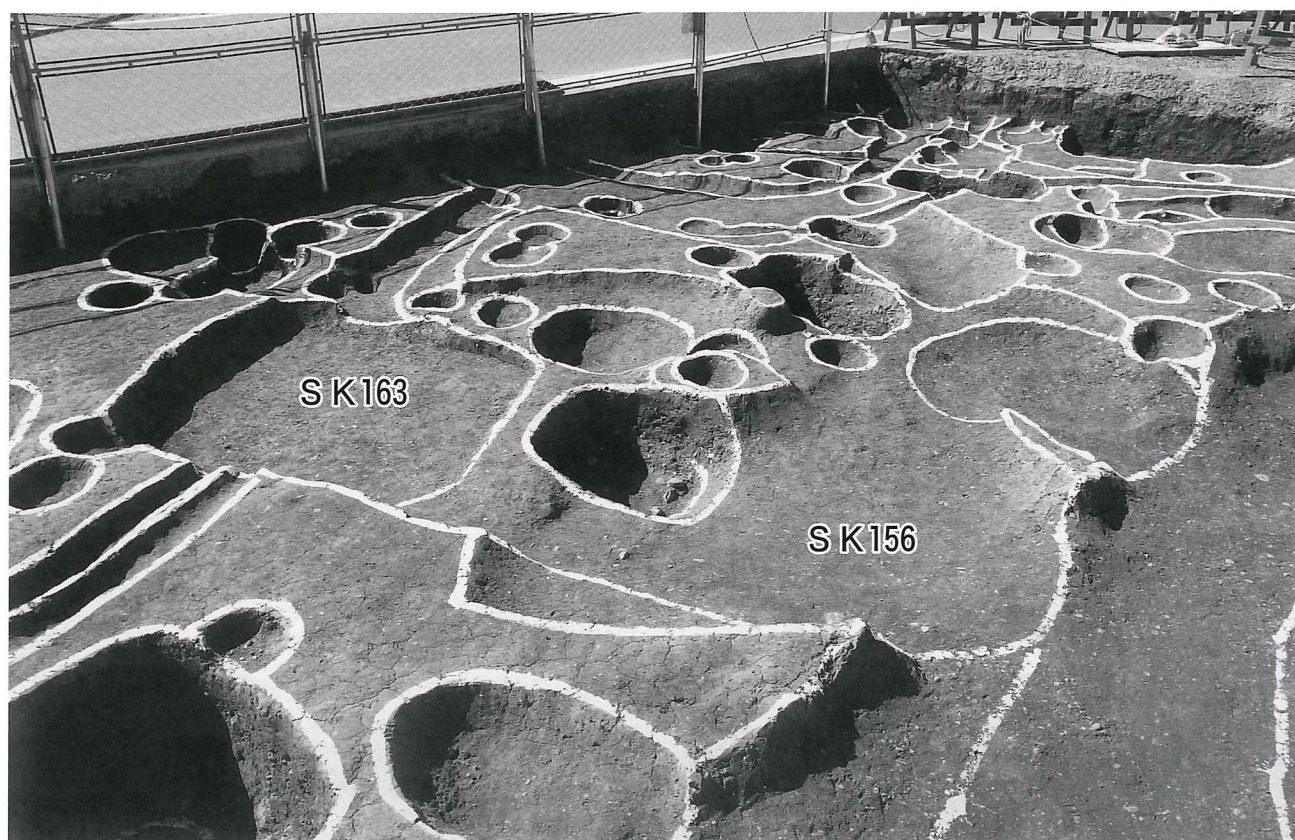


(2) SH3 SP12

(長方形の掘方をもち、底に直径30cmの柱穴の痕跡と根巻石が確認できた。北より)



(1) S H 3 S P 13土層 (土層から直径40cmの柱穴の痕跡が確認できた。北より)



(2) S K 156・163

(S K 156は弥生後期の大型土坑、S K 163は近世の方形土坑である。東より)



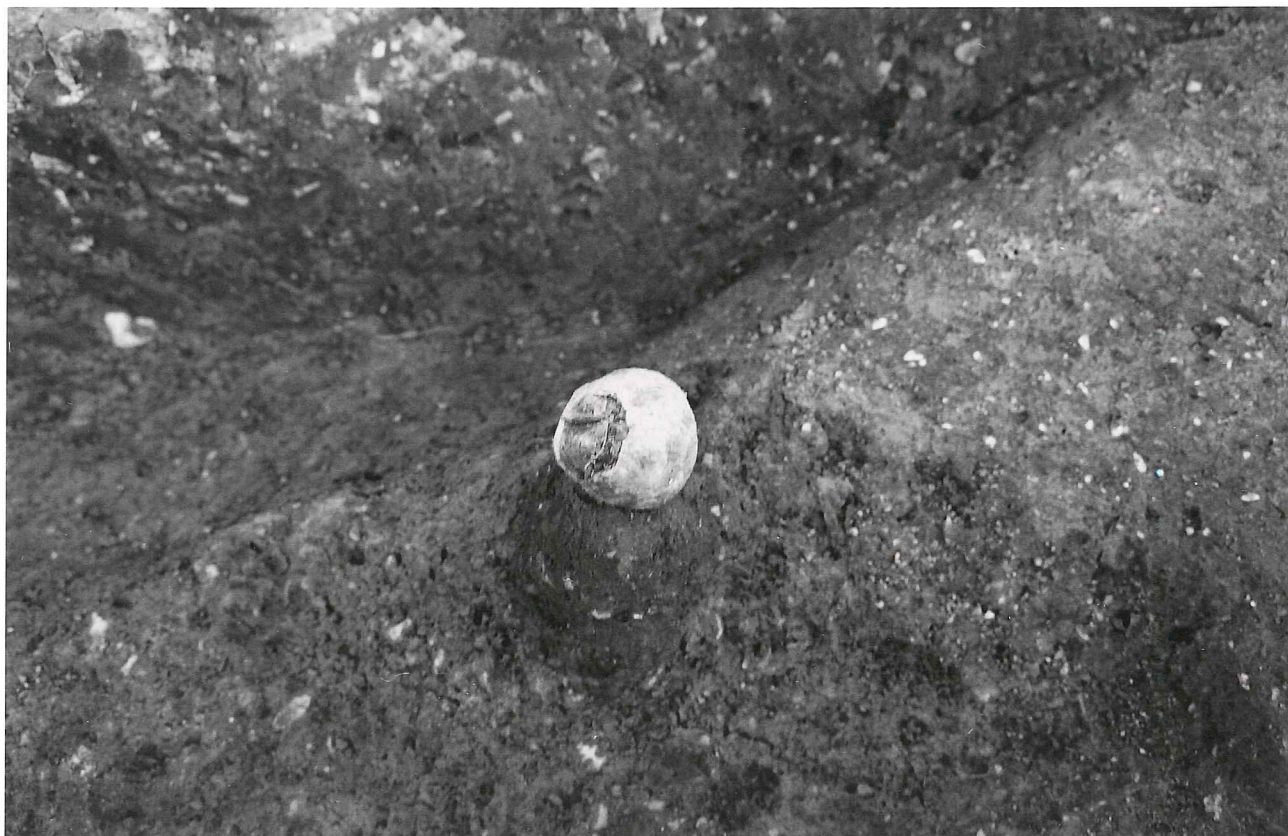
(1) S D86

(S Z 2 西溝と重複する奈良時代の区画溝西端部で、西側は陸橋となる可能性がある。東より)



(2) S D86西端出土土器

(古墳後期の口縁部を欠いた平瓶が底近くから出土した。東より)



(1) S K158出土土器
(弥生後期の土坑であるが、大半はS X14東溝により壊されていた。
ごく一部の範囲から大量の土器片と壺形土器が出土した。西より)



(2) S Z 2空中写真
(奈良時代の区画溝 (S D86) が南溝と重複した
弥生後期～古墳初頭の方形周溝墓と思われる。南より)



(1) S Z 2 空中写真
(四隅が狭くなる弥生後期～古墳初頭の方形周溝墓で、南溝は奈良時代の区画溝と重複する。上が東で、真上より)



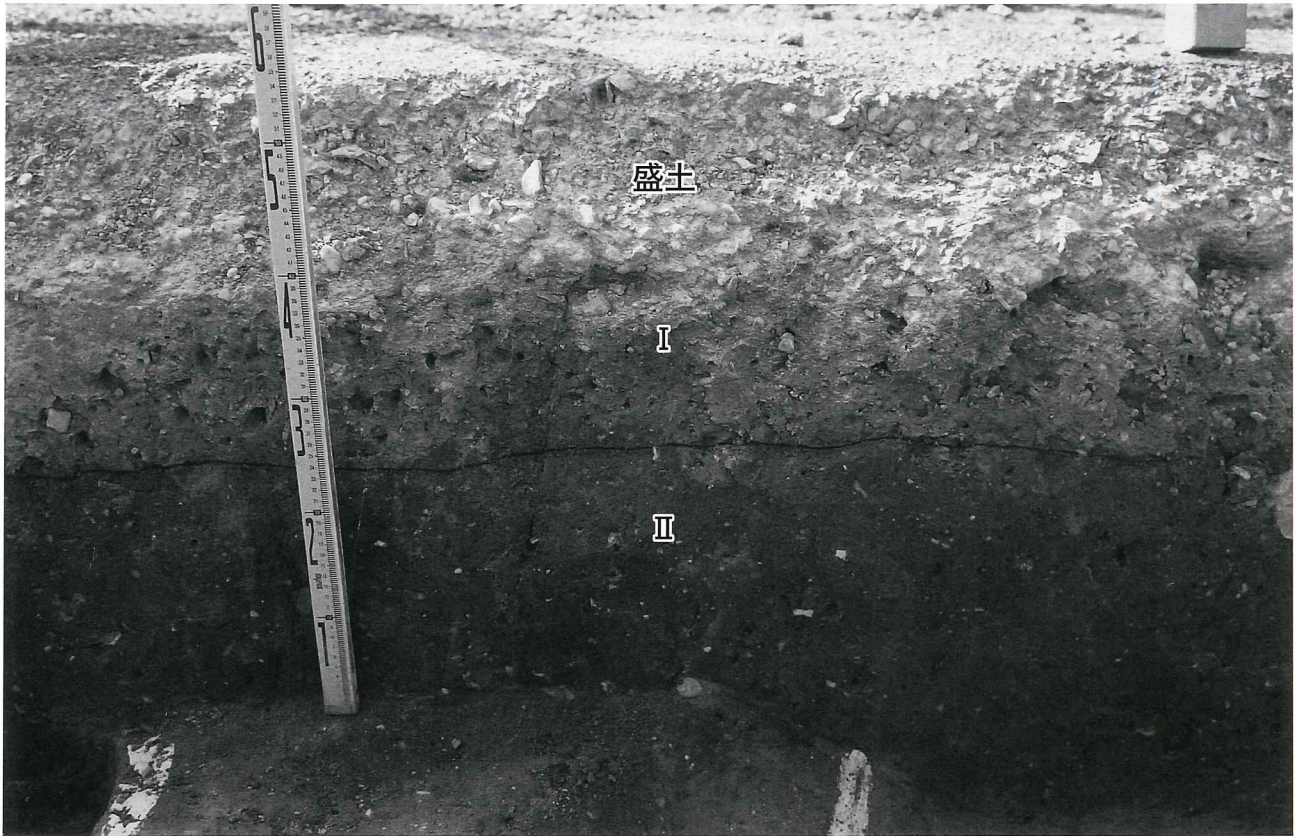
(2) S Z 2 西溝土層 (土層からは自然堆積で、盛土の流入も見られない。南より)



(1) S Z 2 東溝土層
(土層からは自然堆積であるが、わずかに西側からの盛土の流入が見られる。南より)



(2) 包含層中出土土製品
(弥生後期の壺蓋と思われる。掛之上遺跡では初の出土である。西より)



(1) 調査区西壁中央土層（厚さ25cmの良好な包含層が調査区全域で確認できた。東より）



(2) 重機による表土掘削作業風景（包含層上面まで表土を除去することができた。）



(1) 作業員による遺構調査作業風景
(SH3の柱穴を調査している。柱穴の大きさがよくわかる。)



(2) ラジコンヘリによる写真撮影・測量作業風景

報告書抄録

フリガナ		カケノウエイセキ シャシンズハンヘン				
書名		掛之上遺跡58・60・62・64・65・67 写真図版編				
副書名		袋井市駅前第二地区土地区画整理事業に伴う発掘調査報告書23				
編集著者名		松井一明				
編集機関名		袋井市教育委員会				
所在地		〒437－1192 静岡県袋井市浅名1208 電話0538－23－9269				
発行年月日		2008年3月26日				
フリガナ 所収遺跡名		カケノウエイセキ 掛之上遺跡				
フリガナ 所在地		シズオカケンフクロイシタカオカケノウエ 静岡県袋井市高尾掛之上				
コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
市町村	遺跡番号	34° 44′ 24″	137° 55′ 53″	20070529	2065.0㎡	袋井市駅前第二地区 土地区画整理事業に 伴う西通掛之上線・ 田端掛之上線道路建 設他
22216	151			～ 20080326		
所収遺跡名		種別	時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
掛之上遺跡		集落跡	弥生時代 中・後期 古墳時代 後期 奈良時代 中世 近世	竪穴住居 方形周溝墓 土坑 竪穴住居 掘立柱建物 大型掘立柱建物 区画溝 掘立柱建物 区画溝 地割溝	土器・石器 土器（土師器・須 恵器） 須恵器 山茶碗 陶磁器 陶磁器	弥生時代中・ 後期拠点集落 有力集落 郡衙正倉関連 中世館跡

袋井市駅前第二地区土地区画整理事業に伴う発掘調査報告書23

掛之上遺跡 58・60・62・64・65・67

— 写真図版編 —

発行年月日 2008年3月26日

編集・発行 袋井市教育委員会

袋井市役所都市建設部区画整理課

〒437-8666 静岡県袋井市新屋1-1-1

印刷 松本印刷株式会社

〒437-0013 静岡県袋井市新屋4丁目5-2